

会長のページ 医療類似行為と療養費	河野 雅行	3
日州医談 医師国保の財政と将来	佐々木 究	4
就任挨拶 宮崎大学医学部教授就任挨拶	児玉 由紀	6
宮崎大学医学部教授就任挨拶	澤田 浩武	7
エコー・リレー (508)	名越 敏郎, 堀 英昭	8
メディアの目 衆議院選挙を終えて	馬登 貴	12
宮崎大学医学部だより (感染症学講座寄生虫学分野)	丸山 治彦	16
専門分科医会だより (耳鼻咽喉科医会)	井手 稔	17
ニューメンバー	古川 誠志	43
私 の 本 歌集 百通り	長嶺 元久	44
診療メモ 免疫抑制・化学療法を行うすべての患者は HBV感染のスクリーニングが必要である ～B型肝炎ウイルス再活性化を未然に防ぐ～	宇都 浩文	64

あなたできますか？(平成28年度医師国家試験問題より)	9
宮崎県感染症発生動向	10
各郡市医師会だより	14
各種委員会(介護保険委員会)	18
全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会・第67回定例総会 平成29年度第1回運営委員会	19
九州医師会連合会第367回常任委員会	22
第39回産業保健活動推進全国会議	24
都道府県医師会小児在宅ケア担当理事連絡協議会	28
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	30
道路交通法改正に伴う認知症診断に関する感謝状の贈呈	32
医師国保組合だより	33
日医インターネットニュースから	34
理事会日誌	36
ベストセラー	39
県医の動き	40
会員の異動・変更報告	41
ドクターバンク情報	45
行事予定	51
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	53
宮大医学部学生のページ	66
平成29年総目次	68
あ と が き	82

お知らせ 医師資格証を持ちましょう	13
年末・年始の休館について	21
宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ	23
医療事故調査制度 相談窓口	27
日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています	49
宮崎県医師会メーリングリストのご案内	67
平成29年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い	78
宮崎県医療勤務環境改善支援センター	79
郡市医師会への送付文書	80

医師の心得

1. 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年 3 月12日制定)

〔表紙作品：書（遊書）〕

無

思いを込め自分流に書いた遊書です。

無知の知(ソクラテス)，無我・無常(お釈迦様)，無為(老子)等，偉人達は無のつく言葉について語り説いています。

また，般若心経や禅の語録にも無という言葉が使われています。

無とは何かを考えると意味あるものになってしまい，有を意識してしまいます。

会得するにはとても意味深い言葉ですが，躍動感のある文字にいたしました。

宮崎市 おお大 さこ迫 ふみ文 こ子

会長のページ

医療類似行為と療養費

かわ の まさ ゆき
河 野 雅 行

このテーマは古くて新しい問題です。様々な場面で主として整形外科から問題提起がなされています。歴史的に、医師が不足しており代替医療(医療類似行為)として骨折等を柔道整復師(柔整師)がカバーしていた時代がありました。その後、業界団体からの要望で医療と同様に診療報酬から支払われる受領委任払い制度が発足しました。柔整師等は比較的容易に資格が取れ開業できるので、今や養成施設が増え毎年7,000名超卒業しています。比べて整形外科は毎年500名程度誕生し、自然減もあるので実質はもっと少なくなります。医療・医療類似行為は公共的な面が強いので、養成も計画的になされるべきにも拘らず国は新設を認可してきました。供給が増えれば需要も増えて財政負担が増加するのは当然です。このような事態は予測できなかったのでしょうか？ 今や柔整師療養費は4,000億円で小児科や皮膚科の外来医療費よりも高くなっています。近年、「あはき」(あん摩・針・灸の略語)療養費も医療の往診にあたる「往療費」を中心にして増加傾向にあり1,000億円に近づいています。従事者増に連れ不心得者も一定の割合で増えて、反社会的な組織と組んで架空請求等のニュースがあったのは記憶に新しいところです。

これは制度自体の問題と療養費の問題があり、密接にリンクしています。柔整師は数年の養成期間を経て資格取得後直ちに開業できます。医師は大学6年間+臨床研修2年間の後に開業は可ですが、更に専門医教育が必要となります。健保上は両者同様の取り扱いとされます。そこで柔整師に3年間の研修期間を設ける案が浮上してきました。それでも同一俎上に挙げるのは如何なものでしょうか。更に柔整師の過剰広告問題もあります。医師は広告が禁止されていますように柔道整復師法でも、「腰痛・神経痛・肩凝りに効く」「〇〇式除痛法」「交通事故取扱」等は違反広告となりますが、氾濫しています。

療養費受領委任払い制度(これが諸悪の根源という人もいる)の問題点としては、利用者から白紙委任状を取っての施術者による代理請求、骨折・打撲・捻挫等の限定された急性疾患以外にも慢性疾患に対しての多数回多数か所の長期間施術、医師の同意書の不適正取得問題、レセのチェックや指導監査の不徹底等々があります。問題の多い受領委任払い制度ですが、「あはき」についても一部疾患を受領委任払いとする要望が強くなり、厚労省委員会で検討されました。臨床整形外科医会では、現在の柔整師に於いても不正が後を絶たない段階で、改善策も不十分なまま認可するのは反対であるとの意見ですが、国は、「あはき」にもチェック機能を付加する条件付きで認可する方針のようです。

勿論、大多数の業者は法に則っており、一部の者のために迷惑を被っているものと思われます。問題があっても制度を過去に戻すのは、関係者やこの制度の恩恵にあずかっている人々も多く社会的影響を考えれば、困難です。制度に戻すのが困難である以上、コンプライアンス徹底・ルール厳守で実施することが求められます。

(平成29年11月24日)

日州医談



医師国保の財政と将来

理事 佐々木 究

1. 補助金の削減とその影響

医師国民健康保険組合(医師国保)の財政状況は今大きな曲がり角にさしかかっています。というのも平成22年の行政刷新会議で、所得水準の高い国保組合に対する定率国庫補助¹⁾(補助)が槍玉に上がり、平成28年から補助率が従来の32%から毎年段階的に削減され、平成32年には13%になるからです。また今年から被用者保険の拠出金に対し全面総報酬割が導入される過程で、医師国保への補助がさらに削減され、それを加味すると平成32年には補助率は10%程度になります。これまで宮崎県医師国保組合(当組合)は年間約1億円の補助金を貰っていましたが、平成32年にはそれよりも4,300万円少なくなります。削減額は平成28年度の保険料収入3億3,400万円の13%に相当します。単純に考えても削減分を補うには13%もの保険料の値上げが必要になり、事の重大性が理解できます。現在47の各都道府県に組合がありますが、値上げが限界に達すれば解散に追い込まれる組合が出てくるのではないかとというのが医師国保の最も大きな問題点です。

2. 他の保険者との比較

組合の解散は医師国保の保険料が協会けんぽや市町村国保よりも高くなり、経済的な存在理由がなくなった時です。現在の医師国保の立ち位置を知るために、宮崎県のA会員(開業医)の医師(55歳)と妻、子ども1人という3人家庭をモデルケースとして医師国保、協会けんぽ、市町村国保の3者の保険料を比較します。医師の年収が2,500万円、妻が600万円の給与を得ているとします。

医師国保：年間保険料は66万円です。

協会けんぽ：年間保険料は医師には194万円の限度額が相当し、妻の所得にも70万円の保険料がかかります。合計すると264万円です。これを法人と個人で折半します。法人立の医師は本来協会けんぽに加入する義務がありますが、適用除外を申請して医師国保に加入できます。当組合の700世帯中336世帯、48%がこの適用除外世帯に該当します。

市町村国保：年間保険料は89万円です。市町村国保では世帯所得に対して保険料がかかり、この場合は限度額が相当します。個人経営の医師は医師国保、市町村国保のいずれかを選ぶことができます。当組合の42%の世帯がこの国保適用世帯に該当します。

医師国保は協会けんぽに対しては大きな優位性があります。医師国保が保険料の値上げをする際は、市町村国保より高くならない設定が求められます。ここで重要なことは、協会けんぽや市町村国保の賦課限度額も毎年上がっているということです。協会けんぽの限度額は全面総報酬割の導入により、平成29年は前年に比べ実に年間27万円の値上がりでした。市町村国保の限度額も毎年、年間2～4万円上がり続けていますので医師国保の優位性は保たれると考えています。

なぜ医師国保が比較的低廉な保険料を提示できるかというと、医師は自分には自己診療を行い、家族には自家診療を行っても保険請求を行わないからです。当組合ではこの自己診療と自家診療分は実際の外来医療費の30%を占めていると推計されます。ちなみに市町村国保の補助率は32%ですがさらに18%の交付金が投入され

ています。仮に医師国保が解散したとすると、4割強の被保険者が50%もの公費が投入される市町村国保に移行し、しかも自家診療の保険請求が可能となりますので、かえって国の負担は増えるという計算結果があります。医師国保の安定した運営のために、補助率をせめて協会けんぽ並みの16.4%にとどめておくように主張しても良いと考えます。

3. 医師国保の将来

今後補助金削減による経営難が待ち受けていることから、これまでに将来の医師国保のあるべき姿が議論されてきました。今年の10月に奈良で開催された全医連²⁾全体協議会で国保問題検討委員会から出された答申は、「今まで通り単独で存続できればそれにこしたことはない。しかし47ある組合の1つ2つが、歯が抜けるように解散すれば医師国保の意味が薄れる。そうなる前に全国で統一するのが望ましい」というものでした。医師国保は60年の長い歴史があり各都道府県で独自の運営を行っているために、全国での統一には2つのハードルがあります。1つは積立金などの財産に違いがあることです。もう1つは被保険者の構成が、宮崎県のように医師とその家族で成り立っている組合、従業員あるいは従業員とその家族まで加入している組合とさまざまであることです。検討委員会も統一する際の財産の取扱いに関しては指針を示していますが、被保険者の構成の違いへの対処については解を見出していません。構成が異なるままでの統一は困難と思っている方々も多いのではないのでしょうか。また統一した場合のメリットについても十分に議論されていません。そのためか、アンケート調査において47組

合のうち31組合(66%)が単独での存続を優先するというものでした。構成が異なれば抱える課題はさまざまであり、そのためには各組合が単独で存続し、地域に見合った経営努力を行うのが合理的です。その上で高額レセプトの増加などの共通した課題に対しては共同事業を行うというのが現時点においては最良と考えます。ただ、今のうちから将来像に関して議論を深めていくことは大切です。というのもひっ迫した国の財政と増え続ける医療費を考えると今後の展開は楽観できないからです。

4. 宮崎県医師国保組合の今後

当組合はこれまで単独での存続を主張してきましたし、今後もその方針です。当組合の積立金は、組合員1人当たりの額では47組合の中でも屈指の多さを誇ります。補助金削減分に対しては積立金の取り崩しを充てることにより、保険料の値上げを最小限にすることは可能です。しかし先輩方が積み立ててきたお金を私たちの代で使い果たすことはできず、それにも限度があります。また医療費の増加分、拠出金に対する不足分については保険料の値上げをせざるを得ず、組合員の方々にはご理解をお願いする次第です。今後も適切な保険料を設定し、保健事業を強化しながら組合員と家族に対する福利厚生役割を担っていく所存です。

- 1) 定率国庫補助：支出額(保険給付費、前期高齢者納付金、後期高齢者支援金、介護納付金)の一定割合を交付
- 2) 全医連：全国医師国民健康保険組合連合会の略

就 任 挨 拶



宮崎大学医学部教授就任挨拶

発達泌尿生殖医学講座産婦人科学分野 教授 児 玉 由 紀

2017年3月1日付で、宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座産婦人科学分野教授を拝命いたしました。この場をお借りして宮崎県医師会の皆様にご挨拶申し上げます。

私は宮崎県児湯郡高鍋町出身で、高鍋高校から宮崎医科大学に進み、第12期生として1991年に卒業しました。卒業後は宮崎医科大学産婦人科に入局し、池ノ上克教授、鮫島浩教授の下で産婦人科の臨床・研究教育を受けてきました。これまで26年間、大学病院のほか、鹿児島市立病院、県立延岡病院で臨床に携わってきました。2004年から大学で産婦人科病棟医長、総合周産期母子医療センター講師、准教授を経て、2016年にセンター長となり現在に至ります。基礎的研究としては、臍帯血単核球のinterleukin産生能の研究(カリフォルニア大学アーバイン校)、ヒツジ胎仔を用いた臍帯圧迫による低酸素実験(同大学サンフランシスコ校)を行いました。

総合周産期母子医療センターでは、ハイリスク妊婦の妊娠・分娩管理、新生児の治療を24時間体制で行っています。宮崎県の周産期死亡率を最低レベルに維持できるよう、またハイリスク児の予後をより良くできるよう、引き続き県内の一次施設、二次周産期施設、あるいは小児科診療所、行政との連携を図っていききたいと思います。

産婦人科は、周産期の他にも婦人科腫瘍、生殖内分泌、遺伝など、女性の健康に関して取り組むべき分野が多岐にわたっています。それぞれの分野の専門医育成に努め、関連各科・部、施設との協力を密にして宮崎県の婦人科腫瘍の予後改善にも取り組みたいと思います。

当教室の研究は、新生仔脳障害の動物実験モ

デルを用いた基礎研究と宮崎県のフィールド研究の2つの柱があります。臨床研究は、宮崎県のpopulation-based研究として周産期死亡や脳障害に関するデータを報告してきました。これまで20年間にわたって実績を積んできた臨床研究フィールドの維持と発展を目指し、エビデンスのあるデータを出し続けていきたいと思えます。そして臨床上の問題点を動物実験モデルで検証することで、臨床研究と基礎研究とをフィードバックさせながら、母児の予後改善を目指した医療に繋がりたいと思います。

教育に関しては、医療現場に積極的に医学部学生を入れ活動できる体制を整えることが重要です。すぐ上の先輩医師から繰り返し教えられ、さらに上級医師から指導を受けるような卒前卒後を通した臨床教育体制を充実させ、人材育成を行いたいと思います。また当科で周産期分野に始まった国際交流は、学生、研修医、専攻医の英語での症例プレゼンテーションや医療面接にも発展してきました。宮崎大学のスローガン『世界を視野に地域から始めよう』のもと、日常診療から世界へ向けて発信できるよう、先端領域の研究を推進しつつ国際交流にも積極的に取り組んでいきたいと思えます。また宮崎県医師会では、女性医師支援にも積極的に取り組んでおられます。微力ながら、次の世代を担う優秀な女性のみならず男性も含めた後進のための活躍の舞台を整えていく力になればと願っています。

地域住民の医療を基盤とし、大学病院としての使命を果たすべく取り組んでいく所存です。今後ともご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

就 任 挨 拶



宮崎大学医学部教授就任挨拶

看護学科基礎看護学講座 教授 ^{さわ} 澤 ^だ 田 ^{ひろ} 浩 ^{たけ} 武

2017年4月1日付で宮崎大学医学部看護学科基礎看護学講座教授を拝命しました澤田浩武です。どうぞよろしくお願いします。

私は京都出身ですが、縁あって1989年(平成元年)に宮崎医科大学に入学しました。入学した時点で関西に戻ることなくこの地で医師として働くことを決意しました。入学時から小児科医を希望していましたが、ポリクリでいろいろな科の実習を受ける毎にその科の魅力にはまり、初心がふらふらしておりました。結局、宮崎医科大学小児科に入局しました。その後、都城市郡医師会病院、都農町国民健康保険病院で勤務しましたが、多くの期間を大学で過ごしました。小児科の中でも小児内分泌・先天代謝異常というマイナーな領域が専門であったため、4年目からグループ(といっても同期と2名だけだったのでペア)の長をしており、大学から出られなかったのだと思います。2000年頃、グレリンが摂食関連ペプチドとして注目されており、当時小児科教授(第3代)の布井博幸先生の薦めで、第三内科講師(現神経呼吸内内分泌代謝学講座教授)中里雅光先生の下で大学院生として研究させていただきました。大学院研究は小児科診療との両立で大変でしたが、中里先生のストレートな指導で迷うことなく突き進むことができ、自分だけしか知らない新しい知見が得られることを思うと実験が楽しく、つらさを感じませんでした。2006年に学位を取得した後、小児科病棟医長や医局長を勤めました。医局長時代には医師会の先生方に大変お世話になりました。というより、いろいろと失礼なことがあったかと

思います。大事な医局員を守るためにそうならざるを得なかったことをご容赦いただきたく思います。先日、都城市北諸県郡医師会長の飯田正幸先生にお会いする機会があり、この無礼をお詫びしたところ、「そんなの分かっているよ」と笑って許してくださいました。

小児科医として、予防接種、新生児マスキリーニング、小児生活習慣病予防健診に関わってきた私としては、疾病に罹患してから治療するのではなく、疾病に罹患しないように支援する予防的医療が、経済的、労力的、効果的に優れていると感じていました。そこで、環境を整え、健康の保持、増進、回復のために、専門的知識・技術を用いて支援する「看護」に魅力を感じ、加えて、臨床の現場で看護師の質向上が必要であることを感じ、看護学科に異動しました。現在、看護学科1年生に解剖生理学、生化学、栄養学、病理病態学などの基礎医学を講義しています。臨床医としての経験を加えながら自分らしい基礎医学の講義ができればと思っています。よりよい医療チームを実現するために、優れた看護師の養成が必要です。優れた看護師とは十分な医学的知識を身につけた上で実践看護ができ、多職種を含めたコミュニケーションスキルを持っている人と考えています。自分の学生時代の態度は棚に上げ、素直で真面目な看護学生を大事に、時に厳しく育てたいと思います。そして、医学科とともに、看護の立場から宮崎県の医療充実に貢献したいと考えています。これからも変わらぬご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

エコー・リレー

(508回)

(南から北へ北から南へ)

スキューバダイビング事始め

宮崎市 名越内科 な こし とし ろう
名 越 敏 郎

30年ほど前の医者になってまもなくのことです。夏季休暇があると言われ何しようかと街を歩いている時にスキューバダイビングの看板が目に残り、店をのぞき込んでいるとスタッフのお姉さんから「おいで、おいで」と誘われたのが最初です。その後仕事があれば週末、南郷町夫婦浦に通い続けダイビングを楽しんでいました。10年ほど続けていましたが、ショップがなくなり仕事も忙しくなったことにより、その後十数年はダイビングから遠ざかっていました。7年前に沖縄で仕事ついでに久しぶりに潜ったときにパニックになりかけ、これでもうダイビング終了かとも考えましたが、思い直して入らなくなったウエットスーツを新調し、リハビリダイビングと称して海洋講習中のダイビングスクール生のまわりをうろうろして慣れていきました。今は大学生たちと潜ることも多く、いつまでたっても魚の名前が覚えられない(覚えようとしないう)私と違い、彼らの覚え学ぼうとする知識の貪欲さには驚かされています。30年前のテーブルサンゴは温暖化の影響か、多くは死滅してしまいましたが、色とりどりのソフトコーラルが森のように林立し、カラフルな魚も豊富で宮崎の海の素晴らしさを再認識しています。また小さなテーブルサンゴも所々に見られ、海の再生を肌で感じます。ショップでは最年長の一人になってしまいましたが、タンクが担げなくなるまでもうしばらくは宮崎の海を楽しもうと思います。〔次回は、小林市の吉村 雄樹先生をお願いします〕

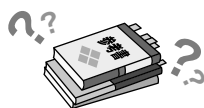
あの～、・・・

小林市 堀胃腸科外科医院 ほり ひで あき
堀 英 昭

ある土曜日の昼に、突然、懐かしい人物から電話をもらった。大学の医局の後輩で、現在、延岡市の伸和会共立病院に外科医として勤務されている、赤須玄先生だった。会話をしたのは、約15年ぶりか。「お久しぶりです。赤須です…。あの～、あまり良い話ではないんですが…」内容は今回のエコー・リレーの依頼であった。久留米の救急病院で一緒に勤務していた頃に、救急症例がくると「あの～、・・・」と申し訳なさそうに相談にきてくれていた姿を思い出す。昔と変わってないなと思いつつ、電話の向こうには、同門の先輩で玄先生のお兄さんである郁太郎先生、晃治先生のお顔を思い浮かべる。『断れるはずないじゃん』と心で思いながら、快く引き受けさせていただいた。同門の先生方が同じ県内におられることは、それだけで心強いものだ。父の代から引き継ぎ、院長になってもうすぐ1年が経つ。勤務医時代に比べ、経験できる手術症例も極端に減り寂しく思う一方、診療所で行うプライマリーケアの難しさを再認識している。少しずつ、自分の置かれている立場、とりまく環境も変化している中、医師会の先生方との関係も大事にしつつ、地域医療に貢献できるよう日々精進したいと思っています。最後に・・・。

2018年6月29日(金)～30日(土)にかけて、第16回日本ヘルニア学会学術集会在札幌で開催されます。会長の宮崎恭介先生にご指導を受けるようになってから、もうすぐ10年が経ちます。テーマは三本の矢(オープン・ラパロ・教育)で、金曜日の夜には懇親会も、サッポロビール園で予定されてるようです。特に外科の先生方、奮ってご参加ください。

〔次回は、延岡市の赤須 晃治先生をお願いします〕



あなたできますか？

—平成28年度 医師国家試験問題より—

(解答は78ページ)

1. 成人における細菌性髄膜炎の原因菌として最も頻度が高いのはどれか。

- a 大腸菌
- b 肺炎球菌
- c 髄膜炎菌
- d リステリア
- e インフルエンザ菌

2. 分娩時の異常と発症時期との組合せで誤っているのはどれか。

- a 臍帯下垂——分娩第1期
- b 会陰裂傷——分娩第2期
- c 過強陣痛——分娩第2期
- d 不正軸進入——分娩第1期
- e 子宮内反症——分娩第2期

3. 二次予防について正しいのはどれか。

- a 性感染症に対してコンドーム使用を推奨
- b 新生児マスキングの施行
- c 河川に遊泳禁止の看板を掲示
- d 適切な睡眠時間を指導
- e ワクチンの接種

4. 4か月の乳児。健康診査のため母親に連れられて来院した。母親と健診医との会話を以下に示す。

健診医 「お子さんはミルクをよく飲みますか」
母親 ①「母乳ですが、足りないようなので粉ミルクを足しています」

健診医 「あやしたときに笑いますか」

母親 ②「はい、よく笑います」

健診医 「お母さんの声の方を振り向きますか」

母親 ③「はい、振り向きます」

健診医 「首はすわっていますか」

母親 ④「まだすわっていないようです」

健診医 「寝返りをしますか」

母親 ⑤「まだしません」

異常である可能性が高いのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

5. 味覚を支配するのはどれか。2つ選べ。

- a 三叉神経
- b 顔面神経
- c 舌咽神経
- d 副神経
- e 舌下神経

6. 22歳の男性。恐怖感を主訴に来院した。中学3年生の11月、高校受験でストレスを感じてい

た。そのころ友人と一緒に食事をした際、喉が詰まったような感じで飲み込みにくくなった。その後も友人との食事の際、同じような状態が続き、外食をすると全く食事が喉を通らなくなった。さらに見られているような気がして手が震えるようになった。家では普通に食事ができる。このため、大学入学後は友人と遊ぶことがほとんどない。今回就職を控え、仕事に支障が出るのではないかと考え受診した。診察時、質問に対して的確に回答し、陰うつなところはみられない。「自分でも気にすることはないと分かっているのに、何でこんなに緊張して食事ができないのか分からない」と述べる。神経学的所見を含めて身体所見に異常を認めない。

治療薬として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 抗不安薬
- b 気分安定薬
- c 抗Parkinson病薬
- d 非定型抗精神病薬
- e 選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)

7. 疾患と症状の組合せで正しいのはどれか。

- a 白内障——霧 視
- b 加齢黄斑変性——羞 明
- c 開放隅角緑内障——飛蚊症
- d 裂孔原性網膜剥離——近視化
- e 網膜中心動脈閉塞症——小視症

8. 身体診察の異常所見とその診察に適した体位との組合せで正しいのはどれか。

- a 側 弯——胸膝位
- b 痔 核——半坐位
- c 甲状腺腫——座 位
- d 項部硬直——右側臥位
- e 頸静脈怒張——腹臥位

9. 疾病と腹部診察所見の組合せで正しいのはどれか。

- a 胆嚢癌——Courvoisier徴候
- b 急性胆嚢炎——Murphy徴候
- c 下大静脈閉塞——臍を中心とする放射状の静脈怒張
- d 急性汎発性腹膜炎——腸管蠕動亢進
- e 十二指腸潰瘍穿孔——肺肝濁音界上昇

10. 尋常性乾癬の病理組織所見について正しいのはどれか。

- a 表皮の海綿状態
- b 表皮顆粒層の肥厚
- c 表皮基底層の液状変性
- d 真皮浅層の好酸球浸潤
- e 角質層下の好中球性小膿瘍

宮崎県感染症発生動向 ～ 10月～

平成29年10月2日～平成29年10月29日(第40週～第43週)

■全数報告の感染症

- 1類：報告なし。
- 2類：○結核17例(男性8例・女性9例)：保健所別報告数を【図1】に示した。病型別報告数を【表1】に示した。年齢別報告数を【表2】に示した。
- 3類：○腸管出血性大腸菌感染症3例：宮崎市、都城、高鍋(各1例)保健所管内から報告があった。患者が2例(HUS発症例1例：O145)、無症状病原体保有者1例で、年齢別報告数は0～4歳が2例、60歳代が1例であった。主な症状として腹痛、水様性下痢、血便等がみられ、原因菌のO血清型はO8(VT1, 2産生)、O145(VT型不明)、O165(VT1, 2産生)である。
- 4類：○E型肝炎1例：宮崎市保健所管内から報告があった。70歳代男性で、主な症状として肝機能異常、両下肢のだるさがみられた。
- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)1例：高鍋保健所管内から報告があった。90歳代で、主な症状として発熱、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感、血小板・白血球減少がみられた。また、海外渡航歴はなく、ダニの刺し口は確認できなかった。
- 日本紅斑熱1例：小林保健所管内から報告があった。70歳代で、主な症状として発熱、刺し口、発疹、肝機能異常がみられた。
- レジオネラ症1例：宮崎市保健所管内から報告があり、病型は肺炎型であった。50歳代で、主な症状として発熱、呼吸困難、肺炎がみられた。
- レプトスピラ症1例：宮崎市保健所管内で報告があった。50歳代で、主な症状として発熱、筋肉痛、黄疸、出血症状、腎不全がみられた。
- 5類：○ウイルス性肝炎1例：宮崎市保健所管内から報告があった。40歳代の男性で、病型はB型である。主な症状として全身倦怠感、嘔吐、褐色尿、発熱、肝機能異常がみられた。
- カルバペネム耐性腸内細菌感染症2例：宮崎市、延岡保健所管内から報告があった。いずれも60歳代で、主な症状として術後創感染(縫合不全)、肺炎がみられ、原因菌はいずれも*Enterobacter aerogenes*である。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。90歳代で、主な症状としてショック、腎不全、軟部組織炎がみられた。血清群は不明である。
- 後天性免疫不全症候群1例：宮崎市保健所管内から報告があった。50歳代男性で無症候性キャリアである。
- 梅毒3例：宮崎市(2例)、日南(1例)保健所管内から報告があった。年齢は20歳代が2例、40歳代が1例で、性別はいずれも男性であった。病型は無症候、早期顕症梅毒(I期)、早期顕症梅毒(II期)が各1例ずつである。主な症状として梅毒性バラ疹、硬性下疳がみられた。

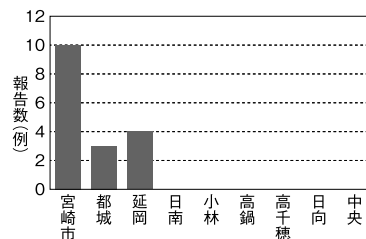


図1 結核 保健所別報告数

表1 結核 病型別報告数(例)

肺結核	8
その他の結核 (結核性胸膜炎、脊椎カリエス、 リンパ節結核など)	6
無症状病原体保有者	2
疑似症患者	1

表2 結核 年齢別報告数(例)

年齢	報告数(人)
30歳代	1
40歳代	1
50歳代	3
60歳代	4
70歳代	1
80歳代	6
90歳代	1

前月との比較

	2017年10月		2017年9月		例年との比較
	報告数(人)	定点当たり(人)	報告数(人)	定点当たり(人)	
インフルエンザ	48	0.8	38	0.6	★
RSウイルス感染症	351	9.8	827	23.0	
咽頭結膜熱	174	4.8	204	5.7	★
※溶レン菌咽頭炎	157	4.4	182	5.1	
感染性胃腸炎	1,061	29.5	820	22.8	
水痘	51	1.4	43	1.2	
手足口病	154	4.3	186	5.2	
伝染性紅斑	8	0.2	9	0.3	
突発性発しん	118	3.3	128	3.6	
百日咳	5	0.1	0	0.0	★
ヘルパンギーナ	103	2.9	203	5.6	
流行性耳下腺炎	67	1.9	60	1.7	
急性出血性結膜炎	1	0.2	1	0.2	
流行性角結膜炎	74	12.3	88	14.7	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	1	0.1	0	0.0	
マイコプラズマ肺炎	0	0.0	1	0.1	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.1	0	0.0	

★例年同時期(過去3年の平均)より報告数が多い
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は2,374人(定点あたり76.1)で、前月の85%、例年の90%と減少した。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染

性胃腸炎で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症とヘルパンギーナである。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はインフルエンザ、咽頭結膜熱及び百日咳である。

インフルエンザの報告数は48人(0.81)で前月の約1.3倍、例年の約14倍である。高鍋(4.2)、都城(1.5)保健所からの報告が多く、年齢別では5～9歳が全体の約半数を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は174人(4.8)で前月の約0.9倍、例年の約2.4倍である。都城(16.0)、小林(15.7)保健所からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約半数を占めた。

百日咳の報告数は5人(0.14)で例年の約14倍である(前月報告なし)。日向(1.0)、延岡(0.25)保健所からの報告があり、年齢別では10～14歳が全体の6割を占めた。

■月報告対象疾患の発生動向 (2017年10月)

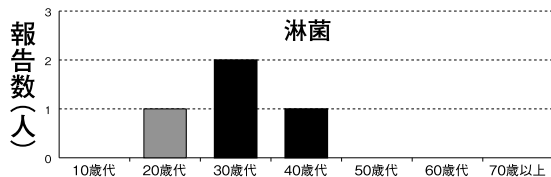
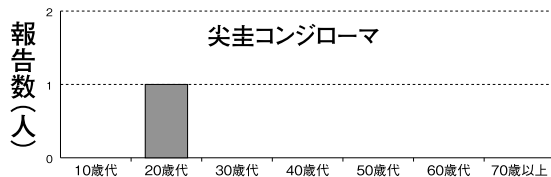
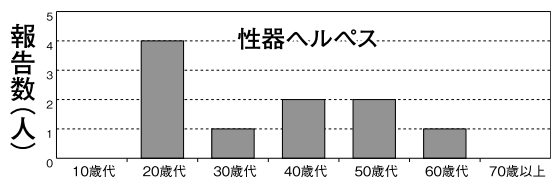
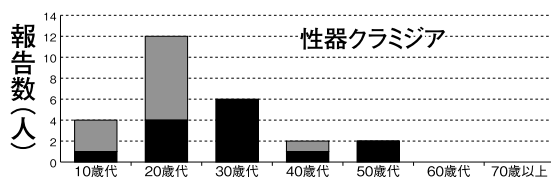
□性感染症

【宮崎県】定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は41人(3.2)で、前月比108%と増加した。また、昨年10月(3.2)とほぼ同率である。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数26人(2.0)で、前月の約1.2倍、昨年10月の約1.1倍である。20歳代が全体の約半数を占めた(男性14人・女性12人)。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数10人(0.77)で、前月の約1.4倍、昨年10月の5.0倍である。20歳代が全体の4割を占めた(女性10人)。
- 尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月及び昨年10月と同率である(女性1人)。
- 淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月の約0.4倍、昨年10月の約0.3倍である(男性3人・女性1人)。



■男 ■女

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は27人(3.9)で前月と同率である。また昨年10月(2.1)の約1.8倍である。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数27人(3.9)で、前月とほぼ同率で、昨年10月の1.8倍である。70歳以上が全体の約半数を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

(宮崎県衛生環境研究所)

■病原体検出情報(微生物部)

	検出病原体	件
ウ イ ル ス	RSウイルス	2
	インフルエンザウイルスAH1pdm09	3
	インフルエンザウイルスAH3	1
	コクサッキーウイルスA2型	1
	コクサッキーウイルスA6型	4
	エコーウイルス25型	1
	パレコウイルス1型	1
	パレコウイルス3型	1
	ヒトヘルペスウイルス6	1
	単純ヘルペスウイルス	1
細 菌	アデノウイルス1型	1
	Salmonella Braenderup(O7:e, h:e, n, z15)	4
	Salmonella Stanley(O4:d:1, 2)	1
	Salmonella Schwarzengrund(O4:d:1, 7)	1
	腸管出血性大腸菌(EHEC)(O26:H11 VT1)	1
	腸管出血性大腸菌(EHEC)(O165:HUT VT1, 2)	1
	腸管病原性大腸菌(EPEC)(O119:H40)	1
	腸管病原性大腸菌(EPEC)(OUT:HUT)	1

メディアの目



衆議院選挙を終えて

M R T 宮崎放送 報道部長

ま のぼり たかし
馬 登 貴

テレビ局にとって、選挙報道は、社の命運をかけた戦いである。上司や先輩たちからは、選挙報道と災害報道は、「絶対に負けられない」と教え込まれてきた。報道記者として選挙報道に携わって約25年。今回ほど燃えなかった選挙はなかったかもしれない。

10月22日に投票された第48回衆議院選挙。結果は、自民公明の与党が313議席を獲得し圧勝。自民党単独でも284議席と過半数を超えた。宮崎県内3選挙区も自民党前職が開票開始の20時に早々と当選確実を決めた。

投票からさかのぼること1か月。安倍首相が突然、衆議院の解散を表明し、準備不足の野党を慌てさせた。私たちマスコミも「なぜ今？」と疑問に感じながらも慌てて選挙準備を進めていった。中央政界の動きで驚いたのが、野党第一党の民進党と小池都知事が代表を務める希望の党との合流だった。森友・加計問題で支持率が低迷する安倍内閣に対し、小池新党への“希望”は高まり、この時「今回の選挙は面白くなる！政治が大きく変わるかも？」と興奮を覚えたものだ。実際、自民党議員に聞くと、当選回数少ない議員を中心に「安倍首相は解散時期

を見誤ったかもしれない」「解散はなかったことにできないのか…」といった不安の声が聞かれたそう。しかし、そこから先は周知の通り。小池代表の「排除発言」によって国民に拒否感が広がり、“希望”が“失望”へと変わった。代わりに仁義を通した立憲民主党は有権者の支持を集め、野党第一党に躍り出た。「政治の世界は一寸先は闇」とよく言われるが、まさにその言葉を肌で感じた1か月だった。

さて、衆院選が終わってからもマークしなければならないことが山積している。流動化する政治情勢はもちろん、改憲勢力が3分の2を超えたことで、憲法改正に向けた動きも注視しなければならない。県内関係では、中央のゴタゴタに振り回された民進党県連がどうなるのかも大きな関心事だ。

今回は自民党の圧勝に終わったが、これからの選挙は続く。来年は1月に宮崎と延岡のW市長選、12月には県知事選が行われる予定だ。さらに再来年夏には参院選もある。どんな候補が立候補し、どんな争いになるかは分からないが、今後も政治の動きを注視していきたい。

医師資格証を持ちましょう

『医師資格証』はHPKI（保健医療福祉分野公開鍵基盤）の枠組みを使った日本医師会認証局が発行する医師資格を証明するカードです

医師資格証は
5年ごとの
更新になりました

申請方法と
受け取り方法が
変更になりました

年間利用料が
廃止されました

2年ごとの
オンライン更新が
不要になりました

診療情報提供書等への HPKI電子署名に対応しています

医師資格証 ご利用シーン



地域医療連携内での
診療情報提供書への
HPKI電子署名

（平成28年診療報酬改定において加算を算定することが可能）

電子処方せん発行時の
HPKI電子署名に使用



日医生涯教育制度、認定
医、かかりつけ医など各
種研修時の受講履歴、
取得単位管理に使用

地域医療連携システムへの
ログイン認証

ログイン



医師資格証ポータル
サイトの利用



治験データへの
HPKI電子署名



文書交換サービスの
利用



身分証としての活用
JAL DOCTOR登録制度
などへの任意登録に使用
する

※医師資格証を身分証として活用できるように各企業、行政機関に働きかけを行なっています



日本医師会 電子認証センター

Japan Medical Association Certificate Authority

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス17階

詳しくは日本医師会電子認証センターホームページをご覧ください。 <http://www.jmaca.med.or.jp/>



各郡市医師会だより

都城市北諸県郡医師会

都城のタウン情報誌では、毎年12月号にて都城圏内で一番気になる出来事をアンケートし、翌年の2月号で掲載しています。少し早いですが、私の盆地ニュース賞を発表します。

1. ふるさと納税2年連続日本一：H28年度の受入額73.33億円，受入件数528,242件ともに日本一でした。それを活用し，乳幼児の入院・通院が無料となり，スマートフォンアプリを利用した電子母子手帳サービスが始まりました。
2. 新燃岳噴火：10月11日に6年ぶりに噴火しましたが，17日以降噴火はなく落ち着いています。人的被害がなかったのは幸いでした。当院(眼科)にも降灰の影響による患者はいませんでした。
3. 中心市街地再生事業：旧大丸跡地にスーパー，事業所，ホテルが入る総合複合施設が建設される予定です。旧大丸センターモールを改築して設置される市立図書館は，2018年春にも開館する予定です，非常に楽しみです。
4. 「広域警察9」ロケ：テレビ朝日系で2010年から放送されている人気刑事ドラマです。高橋克典さん，大杉漣さん等が出演されています。都城島津邸，都城歴史資料館，関之尾滝，神柱公園，そして都城市郡医師会病院もロケ地となりました。知人もエキストラで出演しており，そちらの方が面白くて，内容があまり頭に入ってきませんでした。
5. 医師会館・都城看護専門学校建設：基本設計の細かい修正をし，建設等委員会で協議を行っている段階です。本校卒業生の県内就職率は7～8割で，地域医療を支えています。応募者・入学者は減少傾向ですが，学校新築により増加してくれることを願うばかりです。（永吉 義治）

宮崎市郡医師会

宮崎看護専門学校は，高等課程1学年100名，専門課程50名にて准看護師，看護師を養成し，卒業生の90%以上が県内の医療機関や介護・福祉の現場に就職しています。本看護学校では，学校訪問，オープンキャンパス，HPの充実，授業料免除制度などを行っています。しかし，少子高齢化の影響もあり，高等課程の応募者は減少傾向にあります。地域医療にとって看護師不足は大きな問題となっています。社会人や介護経験後あるいは子育てが落ち着いた後に看護師となれる准看護師養成所は，社会にとって必要であり，日本准看護師連絡協議会の立ち上げ，地域包括ケアシステムの中でも大きな役割が期待できるなど准看護師養成制度の存続が望まれています。（白尾 一定）

延岡市医師会

医学部時代からの同級生であり，延岡医師会の中でも数少ない親友の，江崎豊先生が急に亡くなりました。息子さんが，医大の2年生で，奥様は非常に困惑してます。開業医が死ぬと家族は天国から地獄に突き落とされます，特に医療継承できていない状態だと悲惨なことになります。生前，彼が「俺たち日雇い労務者みたいなもんだな」って言った笑顔が忘れられません。今自分は，他人の体の心配は一生懸命するのに，自分の体の心配は見ても振りしていません。死んだらダメだ，死んだら何にもならない，自分の体を大切に，何が何でも生き抜かなければ，自分の体を大切にすることは，自分に係わる，皆を大切にすることだ。こんなにも多くの人の生活が僕らの肩にかかっているんだと思います。知らされました。彼の診療所は無鹿町と言う延岡市の端っこの場所なので，通院していた沢山の患者様も，どうか新しい先生が開業しても

らえないだろうかと待望しています。人口の割に医療機関が少なく、生前「1日100人は来て忙しい」と言っていました。建物だけではなく、医療機器も整い、初期投資がほぼなく、すぐにも開業できる状態です。賃貸で、開業を考えてもらえる先生はいらっしゃらないでしょうか。

(高橋 博和)

日向市東臼杵郡医師会

本年度の看護学校推薦入試を10月7日(土)に、一般一次入試を10月21日(土)に実施いたしました。推薦入試には近隣の高校から6名の推薦があり、全員を合格としました。推薦入試は適性検査・国語・面接を基に志願者の適正と本校に入学したいというやる気を判定しています。推薦入試制度も定着し、高校から推薦される生徒は、全員学習成績の評定平均が5段階中4.0以上の生徒で、看護師としての資質を兼ね備えています。

一方一般入試の受験者は徐々に減少してきています。このため合否判定の基準としている学力テストのボーダーラインを下げなければならない事態が出てきています。二次試験で一人でも多くの受験者を獲得するため、年末年始にかけて新聞の広告を利用し、志願者を増やそうと考えているところです。

(渡邊 康久)

児 湯 医 師 会

児湯医師会は比較的小さな医師会で、会員数はずっと70名台で推移しています。勤務医の移動はよくありますが、開業医はずっと変化がなく同じ顔ぶれでした。しかしここ1、2年高齢化や病気による閉院、休院が相次ぎ後に続くものとしてはさみしい限りです。しかしその間にも新規開院が2件あり、しかも2件とも小児科の新規開業でした。小児科医の不足、夜間休日の時間外受診数増加、小児科医の過重労働など何かと問題の多い小児医療ですが、児湯地域では充実した体制にあると考えられます。

(大森 史彦)

西都市西児湯医師会

高齢化社会において、介護福祉と強く関連する疾患の一つに骨粗鬆症があります。患者が健

康寿命を保ち、家族の介護負担を減らすためにも、住民が骨粗鬆症を理解することが望まれます。当医師会では12月16日に、宮崎県医師会の健康教育事業の一環として骨粗鬆症に関する市民公開講座を開催します。西都市西児湯医師会、西都児湯歯科医師会、西都薬剤師会の三師会の先生方が集い、市民に向けて講演を行うのは初の試みであります。講演に引き続き、当医師会長によるロコモ体操指導もございます。

(片山 陽平)

南 那 珂 医 師 会

南那珂の地域包括ケア構築の様々な取組みのひとつに平成27年度にスタートした退院調整実証事業があります。その成果として平成28年4月から「日南・串間入退院コンセンサスルール」が運用されています。病院スタッフとケアマネジャーの間でこのルールが使われており、医療と介護の連携が少しすすんだという評価をいただいています。コンセンサスを得るまで両者が本音で討議したグループワークの積み重ねによって今があると思います。多職種連携はどれだけお互いが本音で語れるかがポイントなのでしょう。

(木佐貫 篤)

西 諸 医 師 会

当西諸地域では、行政と多職種の団体とが一体となって、平成27年度より在宅医療介護連携の構築に努めているところです。現在、要介護の方などの入院から退院後の生活や療養を支え、良質なサービスを提供するために、医療機関とケアマネとの間での情報共有を図るためのルールの整備を進めております。

10月2日には、県立日南病院の木佐貫篤先生を講師にお迎えし、日南・串間医療圏の入退院調整ルール策定時のご経験を踏まえ「地域包括ケア推進における入退院調整の重要性」と題しましてご講演をいただきました。先生の貴重なご講演を参考にさせていただき、地域住民の安心に繋がるようなルールを策定できればと考えております。

(園田 定彦)

宮崎大学医学部だより

感染症学講座寄生虫学分野



まるやま はるひこ
丸山 治彦 教授

宮崎大学医学部寄生虫学研究室は、全国でもめずらしい部類になった「寄生虫学」の旗の下、日々虫の研究に邁進しているところです。現在の陣容は、

教員が5名(教授1, 准教授1, 助教3), 非常勤職員3名(事務系1, 技術系2), 大学院生7名(博士課程5, 修士課程2)で、これに日本学術振興会の外国人特別研究員1名が加わっています。

ここ最近のおめでたい出来事といえば、まず博士課程の大学院生だった本部エミさんが、大学院生のまま平成27年3月1日付けで宮崎大学語学教育センターに英語の専任講師として採用されたことです。本部さんはもともと平成22年度採択の頭脳循環プロジェクト「人獣共通感染症および越境感染症制圧のための研究・人材育成ネットワークの構築」で「英語のできる非常勤事務職員」として採用しました。採用後に宮崎大学医学獣医学総合研究科修士課程に入学、次いで博士課程に進み、つい先日博士号が授与されました。彼女の名刺には、海外で強みを発揮するPh. D. の称号が印刷してあります。

もうひとつは、平成18年11月から助教として一緒にやってきた吉田彩子さんが、平成28年10月1日付けで宮崎大学農学部獣医学科の准教授に着任したことです。吉田さんは獣医寄生虫病学の野中成見教授から「是非もらい」がかかったもので、話が出てから着任までは半年ほどの短期間でした。もともと岩手大学の獣医の出身なので、いわば古巣の獣医で大活躍をしてくれることと期待しています。

肝心の研究の方では、ここ数年来進めてきた

ベネズエラ糞線虫のゲノムの仕事が一段落ついたことが上げられます。もともとは隣の研究室の林哲也先生(現九州大学細菌学教授)にそのかかれて始めたことですが、慣れないどころか全く未知の領域で、いろいろ苦勞の多いプロジェクトではありました。

ただ、文部科学省科学研究費新学術領域研究「ゲノム支援」を通じた林教授の絶大なる支援や、当時英国サンガー研究所で仕事をしていた菊地さん(今の准教授)、その他のみなさんのお陰により、ヒトの糞線虫を含む6種類の寄生虫の比較ゲノム研究に参加する形で論文発表に至りました。参加研究室が14で著者数38人という、ある意味典型的なゲノム論文です。現在は、糞線虫のゲノム情報を駆使して、沖縄の糞線虫の集団遺伝学的研究や(菊地准教授)、インドシナ半島をはじめとした各地で採取したヒトとイヌの糞線虫の比較研究(長安助教)で成果が出ています。

臨床に近い話では、これまで割と緩やかだった熱帯病治療薬研究班の研究実施計画を、このところきわめて厳密になった指針に沿うように改訂しなければならず、大変な労力を費やしているところです。今のところキニーネ注射薬(マラリア)とピリメタミン・スルファジアジン(トキソプラズマ症)の研究実施計画書がなんとか承認されたところで、これからトリクラベンダゾール(肝蛭症)に取りかかります。肝蛭症では、岩手大学の獣医学科でクローニングされた組換え抗原が診断に使えるそうで、なるべく早く論文発表して、当研究室の重要な業務である寄生虫症血清診断に使いたいと考えております。

最初にも書きましたが、「寄生虫学」という看板を掲げている医学部の研究室は少数です。しかし、これからはむしろ本医学部の「売り」になるのではと密かに考えているところです。よい意味でのガラパゴス研究室になるべく、これからも精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

専門分科医会だより

(耳鼻咽喉科医会)



井手 稔 会長

宮崎県耳鼻咽喉科医会の平成29年11月現在の会員数は、A会員33名、B会員13名で合計46名です。約2年前にこの医会だよりを書いた時から、2名が廃業してA会員からB会員となり、1名のB会員が入会し、1名のB会員がご逝去されました。つまり2年間でA会員が2名減り、B会員が2名増えています。各市郡医師会別では宮崎市郡がB会員1名増で25名、都城市北諸県郡が6名、延岡市がA会員1名減B会員1名増で7名、日向市東臼杵郡1名、児湯がA会員1名減B会員1名増で1名、西都市西児湯1名、南那珂がB会員1名減で2名、西諸3名です。総会員数は変わりませんが、開業医が2名減り、B会員が1名ご逝去されたことは残念です。

さて、宮崎県耳鼻咽喉科医会は特定非営利活動法人(NPO)日本耳鼻咽喉科医会(日本耳鼻咽喉科医会)にその昭和42年の発足時から所属しています。が、日本耳鼻咽喉科医会は解散し、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会(日耳鼻学会)主導で全国組織の「日本臨床耳鼻咽喉科医会:仮称」へと変貌します。日本耳鼻咽喉科医会の前身は日本耳鼻咽喉科医会連合会で、耳鼻科点数減点問題が発端となり日耳鼻学会の主導で神奈川を除く全国に医会が設立され、その集合体として昭和42年に発足し、顧問に日耳鼻学会理事長が就任しています。しかし、昭和60年に別の保険点数問題で日耳鼻学会理事長が顧問を辞退し、日耳鼻学会と日本耳鼻咽喉科医会連合会の関係は悪化しました。その後、日本耳鼻咽喉科医会連合会を脱退する県が続出し、平成13

年より特定非営利活動法人日本耳鼻咽喉科医会と名称組織を改変しています。平成29年に、県単位で加入しているのは宮崎や熊本、大分、鹿児島、東京など15都県、他の福岡や大阪など32道府県では個人会員として開業医の一部しか加入していません。平成29年5月の日本耳鼻咽喉科医会の会員数は2,221名です。耳鼻咽喉科の開業医数は約5,000人以上と言われており、全国組織とは言えない状態です。平成28年7月に日耳鼻学会森山寛理事長は、救急医療、休日診療、学校保健、医事問題、保険医療などを担う日耳鼻学会と独立した開業医の「全国組織の耳鼻咽喉科医会の設立」を提案し、日耳鼻学会内にワーキンググループを立ち上げ、これに日本耳鼻咽喉科医会の伊東祐久理事長らも参加しました。日本耳鼻咽喉科医会も「臨床家フォーラム開催」「公立学校共済組合レセプト調査」「耳鼻咽喉科点数一覧表発行」などの諸事業を引きついでもらい、そして全国組織の耳鼻咽喉科開業医の会を作るべく、この設立に賛同し協力しています。本年9月17日、日耳鼻学会主導で「全国耳鼻咽喉科医会連絡協議会」が設立され、福岡の開業医である福與和正先生が会長になっています。平成30年7月1日に「全国耳鼻咽喉科医会」設立大会を行う予定です。最終的には平成32年に日耳鼻学会と独立した「一般社団法人日本臨床耳鼻咽喉科医会:仮称」となる予定です。一方、日本耳鼻咽喉科医会は今年の12月31日付けで解散することが決定しました。なお、宮崎県耳鼻咽喉科医会の医会組織としての変化はそうないと考えます。

最後に、宮崎県医師会の先生方には、耳鼻咽喉科医会に対するご支援、ご協力、ご指導を今後とも宜しくお願いいたします。

－ 各種委員会－

介護保険委員会

と き 平成29年11月2日(木)

ところ 県医師会館

金丸常任理事の司会により開会。河野会長から挨拶があり、牛谷委員長の進行で議事に入った。

1 主治医研修会について

担当常任理事から、県の委託を受けて行う介護保険に関する主治医研修会について説明があり、今年度の研修会について企画を行った。

研修内容は、最初に県庁担当課である長寿介護課が情報提供を行い、講師3名が事例検討の発表をし、最後に総合討論を行うこととなった。

講師は、医師2名(認知症、神経難病)、介護認定調査委員1名に依頼し、来年2月にテレビ会議システムを用いて開催することが決定した。

2 認知症地域医療支援事業について

担当常任理事から、県の委託事業「認知症地域医療支援事業」について説明があった。

3 改正道路交通法における認知症診断書等の対応について

担当常任理事から、県警免許センターから提供された資料をもとに認知症診断書等の対応についての報告があった。

現時点では会員の先生方等からトラブルの情報は上がってきていない。また、県警の情報では、専門医のみでなくかかりつけ医にも対応していただけているようであり、引き続き、関係機関との連携を図り、会員への情報提供等を行っていきたいと説明があった。

4 認知症サポート医、認知症初期集中支援チームについて

担当常任理事から、認知症サポート医のリ



ストについて紹介があった。

また、認知症初期集中支援チームについてそれぞれの地域の現状が報告された。

サポート医のリストは、下記の県庁ホームページに掲載されている。

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/iryokaigo/kenko/koresha/choju00112.html>

5 介護報酬改定について

牛谷委員長より、診療報酬・介護報酬の同時改定の課題等について説明があり、その後意見交換を行った。

委員から、医療と介護の連携にはケアマネジャー等介護職員の存在が必要不可欠であるが人材不足のため、介護職員の勤務環境は深刻な状態である。また、職員の人件費は年数とともに増えていくので、経営が厳しい施設が多いのではないかと、マイナス改定で現在のサービスを維持するのは困難である、との意見があった。

出席者－牛谷委員長、三股副委員長、

瀬ノ口・石坂・中島委員

(県医)河野会長、金丸・立元・荒木常任理事、米澤理事、久永課長、鳥井元課長補佐、福田主事

全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会 第67回定例総会・平成29年度第1回運営委員会

と き 平成29年9月23日(土)

ところ グランドプリンスホテル広島

平成29年度の全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会は、広島県医師会の担当で開催された。

協議会長挨拶

広島県医師会長 平松 恵一

本協議会は、武見太郎元日本医師会長の提唱によって誕生し、日医認定医療秘書養成校の全国組織として昭和40年に発足した、歴史と伝統のある協議会である。12県14校になり、今後も加入校の増加に向けて期待が高まる。

近年、少子高齢化が進み医療現場ではより高度化・専門化が進んでおり、医療業務を効率的かつ迅速・正確に補助できる医療秘書の役割は、今後さらに高まっていくことと思われる。

本協議会としても、日医認定医療秘書という職種が一層活躍の場を設けられるよう、今後も日医主導のもと、医療を担う専門職としての医療秘書の認知度向上に努めると共に、加入校の増加に向けて日医認定医療秘書の養成に取り組む所存である。

来賓祝辞

日本医師会長 横倉 義武
(釜蒔敏日医常任理事代読)

先般閣議決定された「未来投資戦略2017」では、健康寿命の延伸が柱の一つに掲げられたが、日本医師会においても、生涯保健事業の推進によって、乳幼児から高齢者まで生涯を通して健康寿命を守ることを提唱してきた。在宅医療、介護医療に至るまで多職種連携がこれからますます重要となってくる。良質な医療を地域住民に提供するためにも、医師の過重労働を軽減し、



より効率的に医療に専念できる環境づくりが必要。そのためには、充実したカリキュラムで能力、技能を身に着けた日本医師会認定医療秘書の活躍が期待される。

現在までに、9,979名が日本医師会認定医療秘書として世に出ている。現在14県12校だが新たに準備を進めている学校があると伺っている。医療秘書養成拡大について、引き続き1人の医師に1人の医療秘書を配置できるよう日本医師会としても求めていく。

都道府県医師会の先生方においても、養成校との連携を密にし、認定医療秘書の活躍の場の確保に協力をいただきたい。

報 告

1 日本医師会医療秘書認定試験委員会について
日本医師会医療秘書認定試験委員会委員長
富田 雄二

第38回の認定試験の実施要綱についてはお送りしているが、昨年度と同様、本年も「健康とは、疾病とは」の項目のみ、新課程・旧課程の2種

類の問題を作成する予定であり、どちらかを選択して受験していただく形である。委員会で既に問題の作成を始めており、今後3回の委員会を開催し問題を完成させる。平成30年2月4日(日)に試験、3月2日(金)に合格発表を行う予定。

2 各学院の現況調査結果について

医療秘書養成を行っている12県から、現況調査結果に基づき報告があった。

医療秘書としての採用は、求人が経験者という指定等もあるため、まだまだ少ない状況である。医療秘書としての募集があっても、経験者や診療情報管理士取得見込み者を希望される場合が多く、日医の医療秘書教育課程のさらなる充実が望まれる。学生の入学状況が厳しい学院もあり、入学者の確保が課題である。医師事務作業補助者の求人、問い合わせが近年増えているという学院では、県内で実施される医師事務作業補助者の学会等に積極的に参加し、情報収集や意見交換を行っている。

一方で、県内への就職率は非常に高く、地域の人材を地域で活かすために各校指導を行っている。

18歳人口の激減に備え、各校引き続き都道府県医師会と密に連携を取りながら、養成を進めていくことが確認され、よりカリキュラムを拡充していくという意見が多数見られた。

3 医療保険請求事務実技試験委員会について

國田常任委員から、総会前に行われた平成29年度第1回医療保険請求事務実技試験委員会では、具体的な試験問題について検討が行われ、適正なものとして承認されたとの報告があった。試験時間の延長と試験問題の回収については、4月のアンケート調査の結果、延長希望の学院が多数であったことから、現行の80分から10分延長の90分とし、問題の回収については、すべての学院が試験を終了する日以降に返却することで承認された。

4 その他

静岡県より、実習について各県の実施状況を教えていただきたいという意見があり、早期に、当番県から各学院へのアンケート調査を行うこととなった。

協 議

重永常任委員より平成28年度収支決算、國田常任委員より平成29年度事業計画(案)・収支予算(案)について報告があった。

福岡県より、平成29年度事業計画2「日本医師会との連携強化」3「医療秘書の専門職としての位置づけの確立」について御意見があり、ブランド力の向上や、医師会員への求人広報の方法など、20年後を見据えて日本医師会は本資格をどのように取り扱っていくのか、見解を求めた。釜蒔日医常任理事より、「採用が活性化するような診療報酬上の手当てを求めていくが、限られた財源の中で動いていく必要がある。厚労省としても理解はしていただいている状況。「日医認定」のブランド力をどう高めていくかについては、まずは採用において日医会員が優先して採用できるような体制を確立することが大切。診療報酬の裏づけがほしいが、まずは、各医療機関に努力をしていただきたく、都道府県また郡市区医師会の協力が必要。各都道府県、養成校が認識を高めて機運を高めることが重要」との回答があった。

その他意見はなく、承認された。

総 括

日本医師会常任理事 釜蒔 敏

新旧2種類の試験問題の実施は今年度までであり、混乱が生じないように十分配慮していきたいので、ご協力をお願いしたい。日医認定医療秘書のさらなる全国拡大に向けて引き続き努力していきたい。医師事務作業補助者としての採用がまだ少ない。医療機関側の体制が整わないこと、診療報酬上の手当てが不十分であること等の指摘はその通りである。医師事務作業補助

体制加算については、引き続き、中医協の担当役員を通して、更なる充実を図るよう要請し、取り組みたい。また、日医認定医療秘書の教育課程のさらなる充実が必要だという指摘に関しては、重く受け止め、対応しなければならない。救急医療の現場で医師も看護師もそれぞれの業務に没頭しているので、記録をリアルタイムで取れない場面は想定される。認定資格を取得した医療秘書が、こういう場面で活躍することは大いに必要になるので、診療報酬上で手当てされ、医療機関でも人材を配置できるように、何とか力を尽したい。

次期当番県医師会挨拶

宮崎県医師会副会長 富田 雄二

来年の定例総会は、平成30年9月22日(土)に宮崎県のフェニックス・シーガイア・リゾートにて開催する予定である。

閉 会

広島県医師会副会長 檜谷 義美

出席者－富田副会長、池井常任理事、牧野課長、横山主事、久保氏(宮崎学園短期大学)、福元氏(宮崎医療管理専門学校)、吉原氏(都城コアカレッジ)

お知らせ

年末・年始の休館について

県医師会館(医師会、医師国保、医師協同組合、病院厚生年金基金)は年末・年始休業のため、下記のとおり休館いたしますのでお知らせします。

記

期 間 平成29年12月29日(金)～平成30年1月3日(水)

緊急連絡先 総務課長 090-9572-1385

事務局長 090-1514-3220

九州医師会連合会第367回常任委員会

と き 平成29年10月27日(金)

ところ ホテル日航福岡

1 開 会

2 九州医師会連合会長挨拶

福岡県医師会長 松田 峻一良

3 報 告

1) 九州医師会連合会事業現況について

(福岡)

2) 九州医師会連合会歳入歳出現計について

(福岡)

3) 第117回九州医師会連合会総会及び医学 会関連行事について(福岡)

4) 第117回九州医師会医学分会の出題 並びに記念行事の参加申込状況について

(福岡)

10月29日開催の内科学会をはじめ7分科会の出題と記念行事の参加状況について報告があった。記念行事には、ゴルフ他9種目に615名の参加申込みがあること、また、来年度以降バドミントン大会を種目に追加してはどうかとの意見も出ていたとの報告もあった。

5) その他

4 協 議

1) 第117回九州医師会連合会総会の宣言・ 決議(案)について(福岡)

事前に文書で各県へ照会し、修正意見を反映した決議案を提案どおり承認し、明日の総会に提案することが了承された。

2) 九州医師会連合会第368回常任委員会(平 成30年1月27日(土)那覇市)の開催について

(福岡)

日程について原案どおり了承された。



3) 九州医師会連合会第369回常任委員会、 第2回各種協議会並びに医療情報システム 担当理事連絡協議会(平成30年3月3日(土)・ 4日(日)福岡市)の開催について(福岡)

第2回の各種協議会では、1日目が16:00から18:30まで、2日目も9:00から11:20までとこれまでと比べて日時を延長し、十分議論していただきたいとの考えで企画している。現時点では、1日目が日医からの中央情勢報告(診療報酬、介護報酬改定情報含む)2日目が各県からの議題協議と考えているとの提案があり、他の日程を含めて了承された。

4) 平成30年度九州学校検診協議会専門委 員会並びに九州学校検診協議会幹事会の日 程変更について(鹿児島)

参加される先生方の診療体制、従来土曜日に開催していたことを考慮し、専門委員会並びに幹事会の日程を10月26日(金)から10月28日(日)へ変更することが了承された。

5) 平成30年度九州医師会連合会学校医負担金について(鹿児島)

来年度は、全国学校保健・学校医大会と九州ブロック学校保健・学校医大会を同時に開催するので九州医師会の負担金は、徴収しないことを九州医師会学校保健評議委員会に諮ることが提案され了承された。

6) 九州医師会連合会救急・災害医療担当理事連絡協議会並びに第3回九州ブロック災害医療研修会(平成31年1月26日(土)・27日(日)鹿児島市)の開催について(鹿児島)

日程について原案どおり了承された。

7) その他

5 その他

1) 第15回福岡県医師会「卒後臨床研修指導医ワークショップ」開催に関する周知依頼について(福岡)

2) 日本医師会創立70周年記念式典・医学大会における各種表彰者に対する慶祝について(福岡)

3) 秋の叙勲等受賞者に対する慶祝について(福岡)

出席者－河野会長、山内事務局長

宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ



ベビーベッド
完備

宮崎県医師会では、県医師会館で開催される講演会・研修会に参加される医師(医師会員でなくても可)のお子様を対象に本会館1階に臨時の無料託児ルームを設置いたします。県医師会が契約した保育士が対応いたします。

ご利用の場合は、事前の予約が必要となりますので、ご希望の方は開催日の2週間前までに県医師会までご連絡ください。

お問合せ先

宮崎県医師会

TEL 0985-22-5118

FAX 0985-27-6550

担当 畠中・久永

第39回産業保健活動推進全国会議

と き 平成29年 9 月28日(木)

ところ 日 本 医 師 会 館

開 会

はじめに、主催者である4団体の代表、加藤厚生労働大臣(田中厚労省労働基準局安全衛生部長代読)、横倉日医会長、有賀労働者健康安全機構理事長、櫻井産業医学振興財団理事長の挨拶があった。

活動事例報告

1 新しい産業保健事業への取組みについて

岡山県産業保健総合支援センター所長

石川 紘

昨年厚労省が「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」を公表し、それに伴い岡山県産業保健総合支援センターでは、制度の周知拡大を目指し活動を行っている。啓発強化に向けて両立支援促進員が登壇するセミナーの実施、両立支援を行うための環境整備に向けて会議を開催している。

また、面接指導の事例検討の研修をロールプレイ形式で行うことや、労働局との共催でストレスチェック未実施・報告書未提出の事業者に対する研修を行いストレスチェックに対応するための活動も実施している。

2 八幡浜地域産業保健センターの活動について

八幡浜地域産業保健センターコーディネータ

井上 千恵香

八幡浜がある愛媛県は、50人未満の事業所数の割合が9割以上を占めている。その中でも小規模事業場(1～9人)の割合が非常に多いため、八幡浜地域産業保健センターは、労働基準監督署といった関係機関との連携に力を入れている。利用事業場を増やすために、商工会議所



や社会福祉協議会といった団体に所属する小規模事業場においては、同じ日に1か所に集ってもらい、複数の事業所の意見聴取・保健指導を同時に実施したり、その集まりに出席していた事業所を飛び込みで訪問し産業保健の重要性を説明する活動を行っている。

説明・報告

1 ストレスチェック制度の円滑な実施を目指して—アンケート調査を中心に—

日医産業保健委員会副委員長

産業医科大学教授

堀江 正知

2016年から義務化されたストレスチェックから2年が経過し、現在どのような現状にあるのかを把握すべく認定産業医を対象にアンケート調査を行った結果が報告された。アンケート内容は多岐にわたる。例えばストレスチェックの実施率は約8割、医師による面接指導を実施した事業場は約3割であった。

ストレスチェックが導入されたにも関わらず、事業場からの依頼がなくストレスチェックを

行っていない産業医もあり、今後も事業場への周知が課題となっている。

全体を通して、ストレスチェック制度に対して、肯定的な意見より疑問・否定・懸念といった意見が多く、負担が過大であることや報酬の問題、事業場の理解不足が挙げられた。

2 医療機関における産業保健活動の推進

－アンケート調査結果並びに医師の働き方検討委員会の取組みを踏まえて－

日医産業保健委員会委員・日医医師の働き方検討委員会委員・三井記念病院精神科部長

中嶋 義文

「医療機関における産業保健活動推進のための具体的方策～医療の質と安全の向上を目指して～」について検討を行うにあたり、日医会員医療機関施設長を対象に行われたアンケート調査の結果が報告された。最近力を入れている、または見直しを行った産業保健活動として、過重労働・働き方改革関連、メンタルヘルス対策関連が多く挙げられ、それに関連した研修会の増加が求められている。また、医療機関における産業医業務の定義や面談ガイドラインの作成等といった積極的な情報提供が今後医師会や国に期待されるということや、医療の質と安全の向上には医師の疲弊防止と健康維持が必要であることが報告された。

3 病気の治療と仕事の両立－働き方改革実行計画から－

1) 労働者の健康確保のための産業医・産業保健機能の強化

厚労省労働基準局安全衛生部労働衛生課長

神ノ田 昌博

働く人々が健康の不安もなく、働くモチベーションを高め、最大限に能力を向上・発揮することを促進するには、産業医・産業保健機能の強化が求められる。しかし、産業医の活動環境の整備や産業医に対する情報提供等が強化されるにつれ、産業医の負担がますます大きくなる

のではという意見も挙げられた。

2) トライアングル型支援などの推進

労働者健康安全機構理事

大西 洋英

治療と仕事の両立に向けたトライアングル型サポート体制が整備された。主治医や医療ソーシャルワーカーといった医療機関と人事労務担当、産業医といった企業側が働く人の治療情報を共有し継続的に支援する従来の形に、産業カウンセラー、キャリアコンサルタントといった両立支援コーディネータが加わったのがトライアングル型体制である。働き方改革実行計画によると、2020年度までに両立支援コーディネータを2,000人養成することが計画されている。今後両立支援コーディネータに求められる役割・能力の明確化や養成研修の実施が求められる。

協 議

質問1 常総地域産業保健センター

産業医による意見聴取の必要性について

日本医師会より健康診断実施機関に対し、医学的判定のフォローに事後措置のための産業医による意見聴取が必要であると事業主に伝えることを徹底するのは可能であるか。健診機関が作成している健康診断実施結果の用紙に産業医の意見・氏名欄がないところがほとんどで、医学的判断のフォローだけに終わっており、事後措置に活用されていないのが現状である。

神ノ田労働衛生課長 省令で定められた健診の個人票を用い、その中の項目「医師の意見欄」について意見聴取を実施するとされているが、一部ではその様式ではないもので健診結果を報告しており、事後措置が実施されていない。事業場に健診・事後措置の実施の必要性を理解してもらうための周知が必要だと考える。

松本日医常任理事 健康診断実施結果が医学的フォローだけに終わっているのは確かで

ある。産業医が省令で定められた健診の個人票の作成等について事業者呼びかけよう産業医研修会を通して指導し、事業者周知していきたい。

質問2 埼玉県医師会

①地域産業保健センターの予算について

例えば、県内の地域産業保健センター(A)で年度予算の余剰金があり、同じく県内の地域産業保健センター(B)では予算超過していて且つ新たな事業を展開する場合、AはBに余剰金を充当するといったことが可能であるのか。

大西労働者健康安全機構理事 可能である。また、同じ県内の地域産業保健センター内だけでなく地方のブロックでも同じ対応が可能である。

②専任コーディネータの身分保障と謝金の固定化について

コーディネータの活躍が地域産業保健センターの実績につながるといわれているにもかかわらず身分保障がされていない。少なくとも専任については、身分保障と謝金を固定化することで活躍の場を広げることが必要ではないか。

大西労働者健康安全機構理事 平成25年12月「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」が閣議決定され予算の合理化が図られたため、安易に給与等を上げることができない。しかし、コーディネータは身分保障されるべきだと考えているためサポート体制を整える必要はある。

質問3 大宮医師会

①陸運事業における衛生管理の取組みについて

近年の「過労死等の労災補償状況」より陸運事業における衛生管理の立ち遅れが問題となっている。問題が深刻化する前に、陸運事業に特化した支援内容が必要であると考えているが、いかがなものか。

大西労働者健康安全機構理事 事業所に面

接指導を行う地域産業保健総合支援センターについては、事業場の規模に関係なく産業保健総合支援センターに情報を周知する。また、産業保健総合支援センターについては、情報を得た上でトラック協会等向けに研修会を実施したりすることで支援を行う。

②治療と職業生活の両立支援の推進について

今後全国で両立支援を推進していくためには、産業保健総合支援事業における「ガイドライン」の周知と事業場への支援が必要になると思われる。また、主治医向けの周知についてはどう考えているのか教えていただきたい。

及川産業医学振興財団事務局長 事業所への個別訪問により今後も周知活動を続けていく方針である。

主治医向けの周知については、厚労省で主治医の意見書の書き方等のガイドラインを作成中であり次年度にアプローチしていく予定である。

質問4 岡山市医師会

①復職可否の判断について

労働者の疾病が回復した場合、事業者は職場復帰の可否を判断するが、収集された主治医の情報が産業医に提供され、職場において必要とされる業務遂行能力等を踏まえて職場復帰の可否の意見が産業医に求められる。万が一復職し疾病が増悪した場合、産業医が法的責任を取る必要があるのか。

及川産業医学振興財団事務局長 復職後の日常生活の就業指導等においては本人・事業場・主治医の連携が重要であり、産業医は産業医学の視点から意見を述べる立場ではあるが、法的責任をとるほど負担はない。

②復職支援について

復職支援について、プランの期間及び過程等詳しい内容は提示されていないが、どのようなプログラムが望ましいのか。

及川産業医学振興財団事務局長 疾病状況

により、プラン等は人それぞれである。現在厚労省では、支援の進め方といった具体的な支援を記載したガイドラインを作成中である。

③職場の上司、同僚への研修について

地方労働局では、事業者、管理者には研修を行っているが、職場の上司、同僚に対しては一時的な負荷があるにも関わらずそういった対応は行われていないようである。

大西労働者健康安全機構理事 現在、事業場へ向かい個別訪問支援を行っている。今後も続けていき、情報周知に努めたい。

④小規模事業場について

両立支援が始まったが小規模事業場へ周知がうまく行き渡っていない気がする。小規模

事業場への今後の対応は厚労省として何か考えはあるか。

大西労働者健康安全機構理事 産業保健総合支援センターに両立支援促進員を配置したり、事業場訪問を行ったりすることで小規模事業場への周知に努めている。厚労省としては、両立支援を行う小規模事業場に助成金の支給等の対策を考えている。

出席者－黒田・富永・新・山元(地域産業保健センターコーディネータ),
佐々木(幸)常任理事, 福田主事

医療事故調査制度

宮崎県医師会 相談窓口

宮崎県医師会は支援団体として、県内の医療機関をサポートいたします。
医療事故の判断に迷った時、また、医療事故と判断した時は、宮崎県医師会までご連絡ください。

宮崎県医師会 電話 **0985-22-5118**

【受付時間】

平日の8時30分から18時、土曜日8時30分から12時30分の時間帯は、県医師会事務局の代表電話(0985-22-5118)で対応いたします。

時間外または日曜祝祭日等県医師会が対応できない場合は、国が指定した東京の医療事故調査・支援センター相談専門電話(03-3434-1110)にご連絡ください。

【その他】

この制度は、医療事故の再発防止により医療の安全を確保することを目的にした制度です。対象事案を報告するか否かについては、医療機関の管理者が組織として判断することになっており、ご遺族から医療事故調査・支援センターに直接報告や調査依頼をする仕組みではありません。

平成29年度都道府県医師会小児在宅ケア担当理事連絡協議会

と き 平成29年10月18日(水)

ところ 日本医師会館

松本日医常任理事の司会により開会、横倉日医会長より「本連絡協議会は初めての開催であり、日本医師会としてもこれからの取組みとなるので、都道府県医師会及び郡市区医師会と共に活動を進めていきたい」と挨拶があり、小児在宅ケアへの理解と協力を求められた。

1 小児在宅ケアを巡る現状と課題

1) 総 論

埼玉医科大学総合医療センター

小児医療センター長 田村 正徳

小児在宅医療の特徴には、病状が成人とは全く異なる、NICUやPICUから退院した患者が多いため医療依存度及び重症度が高い、ケアマネジャーがいないといったことが挙げられる。また、家族の介護負担が非常に大きいため社会全体で小児在宅医療支援を推進することが求められている。

2) 在宅医の立場から

医療法人財団はるたか会

理事長 前田 浩利

小児の地域包括ケアには、高度医療機関と地域の医療サービスの連携が必須であり、医療、福祉、教育など多施設、多職種が関わるのが重要である。しかし、施設間や職種間を調整するコーディネータが不在である。

重い障害や病気をもった子どもを含む全ての子どもが、地域で安心して暮らすことができる環境づくりが今後課題となる。

3) 相談支援専門員の立場から

日本相談支援専門員協会顧問 福岡 寿

障害者の相談に応じ、助言などを行う相

談支援専門員は、サービス等利用計画(障害児支援利用計画)作成が義務化されているが、ケアマネジャーと比べて認知度が低く、医療的ケア児の計画作成を担える相談支援専門員が十分に育成されていないのが現状である。福祉の面から支援する重要な役割があるので、相談支援専門員の存在を知ってもらいたい。

2 厚生労働省の対応

1) 児童福祉法の改正、障害児福祉計画等について

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部
障害福祉課障害児・発達障害者支援室長

三好 圭

平成30年4月1日より、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律」が施行される。重度の障害等により外出が著しく困難な障害児に対し、居宅を訪問して発達支援を提供するサービスを新設するといった障害児支援のニーズ多様化へのきめ細かな対応が含まれている。また、児童福祉法に基づく障害児通所・入所支援などについて、サービスの提供体制を計画的に確保するため、都道府県及び市町村において障害児福祉計画を策定する等の見直しを行うこととされている。

2) 医療計画上の取扱い、小児在宅医療人材養成事業等について

厚生労働省医政局地域医療計画課

在宅医療推進室長 松岡 輝昌

都道府県は、国の定める基本方針に即し、

地域の実情に応じて医療提供体制の確保を図るために医療計画を策定する。医療計画の見直しにおいては、小児医療体制の確保、地域医療構想や介護保険事業計画と整合性のとれた在宅医療提供体制の整備が重要な課題である。

国では、小児在宅医療の推進に関する事業として、小児等在宅医療連携拠点事業、在宅医療関連講師人材養成事業、小児在宅医療ハイレベル人材養成事業を行っている。

3 医師会の取組み

1) 日本医師会の取組み

日本医師会常任理事 松本 吉郎

「小児在宅ケア検討委員会」を設置し、小児在宅ケアにかかる課題と対策、医師会の果たすべき役割等について検討し、今年度中に答申をまとめる予定である。

また、医師会の役割を検討するため、都道府県医師会を対象に「小児在宅ケア提供体制に関する調査」を実施した。

2) 大阪府医師会の取組み

大阪府医師会副会長 中尾 正俊

小児在宅医療に関する委員会・協議会を設置し、2009年に地域医療再生基金を活用した「NICU等長期入院者対策と在宅医療地域ネットワーク構築」等を行ってきた。多職種を対象に「大阪の小児在宅医療を考える会」を開催しており、シミュレータを用いた実技講習会も開催している。

また、大阪小児科医会の一環として「在宅小児かかりつけ医紹介事業」を開始している。この事業は、自身の可能な医療範囲や時間帯で関わるができるので、小児在宅医療に関わる新たな医師を増やす方策の一つとして有用である。

小児在宅医療を推進するためには、大学、

専門医療機関、小児科医会・内科医会、行政、福祉関係団体との連携が必要である。

3) 愛知県における医療的ケアの必要な子どもたち特に超重症児を外に連れ出す試みについて

愛知県医師会理事 野田 正治

小児在宅医療を進めるため、これまでも医師向けの講習会や多職種向けの勉強会などを行ってきたが、医師の参加は少なく、メンバーが固定しており、広がりが無い。

医療を提供する側の研修も必要であるが、障害児やその家族のために何かできることはないかと考え、普段は外出することができない重症障害児のために「映画上映会」を開催し、外に連れ出す試みを開始した。また、「もーやっこジュニアの広場」を発足し、映画上映会の企画を行っている。運営上の問題や課題もあるが、子どもたちや保護者の満足度は高いので、活動を続けていきたい。

総 括

日本医師会副会長 中川 俊男

今後、保育・教育の現場で医療的ケア児の受け入れが進んでいく中で、園医や学校医としても、そうした子ども達への対応についてアドバイスを求められることが多くなる。本日の連絡協議会を契機に、各地域でぜひ取組みを進めていただきたい。

出席者

(日医会場)石川常任理事

(県医TV会議場)

中谷圭吾先生(県立宮崎病院),

弓削昭彦先生(県小児科医会),

木許恭宏先生(宮崎大学医学部小児科),

鳥井元課長補佐・福田主事

宮崎県医師会親善ゴルフ大会

と き 平成29年11月3日(金・祝)

ところ ハイビスカス G・C

恒例の県医親善ゴルフ大会が、ハイビスカスゴルフクラブにおいて開催され、32名の会員の先生方が参加されました。

後半からは小雨が降るコンディションではありましたが、無事に大会を終了することができました。

今大会の競技方法は、18ホールズストロークプレイダブルペリア方式(同ネットの場合は年長者を上位)で行われ、団体戦は宮崎Cチーム(棚田敏文先生・坪井浩一先生・原田勇一郎先生)が優勝、個人戦は、年齢別にA・B・Cの3区分に分けて行い、A：長倉穂積先生(都城)、B：棚田敏文先生(宮崎)、C：谷脇功一先生(西諸)がそれぞれ優勝されました。

また、来年5月に開催される「第2回全国医師ゴルフ選手権(チャンピオンシップ戦)」には、棚田敏文先生(宮崎)と江夏剛先生(都城)が出場される予定です。

成績は以下の通りです。

団体戦		郡市名	NET合計	各郡市 NET 上位 3 名					
優勝		宮崎 C	211.8	棚田 敏文	68.0	坪井 浩一	70.8	原田勇一郎	73
準優勝		都城	213.8	長倉 穂積	70.4	瀬ノ口浩史	71.6	江夏 剛	71.8
3 位		延岡	217.8	谷脇 功一	70.4	吉田 建世	71.6	市原 久史	71.8

個人戦		会員名	OUT	IN	GROSS	HD	NET	
A	優勝	長倉 穂積	39	41	80	9.6	70.4	
	準優勝	坪井 浩一	47	49	96	25.2	70.8	
	3 位	瀬ノ口 洋史	42	44	86	14.4	71.6	
B	優勝	棚田 敏文	33	35	68	0	68	
	準優勝	佐々木 昭	48	49	97	27.6	69.4	
	3 位	吉田 建世	42	38	80	8.4	71.6	
C	優勝	谷脇 功一	39	35	74	3.6	70.4	
	準優勝	市原 正彬	45	50	95	22.8	72.2	
	3 位	吉見 多喜雄	42	39	81	8.4	72.6	
BG賞		棚田 敏文	68					
NP賞		市原 久史, 江夏 剛, 古賀倫太郎, 佐々木 昭, 立元 祐保, 矢野 裕士						

(五十音順)



団体戦優勝**宮崎市Cチーム**

宮崎県医師ゴルフ大会に初参戦優勝に微力ながら貢献でき、嬉しく思っております。中学生の頃から競技ゴルフに参加し、大学時代は、野間内科；野間健之先生と東医体団体優勝などゴルフに関しては懐かしい思い出ばかりです。今回参加してグロス70台以下で回る先生が何人もいらっしゃることに驚き、診療の傍らにおけるスコアに敬服の至りです。一緒に回った、古賀倫太郎先生、坪井浩一先生とは、ゴルフの話のみならず仕事の話など実り多いラウンドでした。ゴルフの醍醐味は、楽しく会話をし自分のベストを尽くすことだと思っています。これを期に私自身も精進し、来年も参加したいと思います。

宮崎Cチーム；グロス(棚田68坪井96原田79)

(原田勇一郎)

総合優勝**宮崎市郡医師会 棚田 敏文**

久しぶりに県医親善ゴルフ大会に参加させていただきました。来年の全国医師ゴルフ選手権の予選を兼ねるとのお知らせを受けて、是非とも出場したくなった次第です。

当日は先輩諸先生方にお会いできて、懐かしい思いをしました。少しだけ小雨になりましたが、ゴルフ日和で、同じくらいの年齢の岩村先生、下蘭先生と同伴させていただきました。ありがとうございました。お陰様で、ノーボギーでラウンドできました。目標のベストグロスが取れて、全国大会への切符も手に入れることができました。ご参加された先生方、裏方の県医職員の方々、お世話になりました。

PS・エージシュートを達成された谷脇先生、おめでとうございます！

道路交通法改正に伴う認知症診断に関する 感謝状の贈呈について

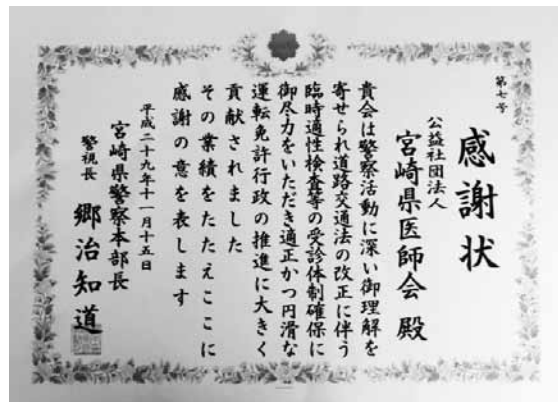
と き 平成29年11月15日(水)

ところ 宮 崎 県 警 本 部

平成29年3月に施行された改正道路交通法に伴う認知症診断等について、受診体制の確保に尽力したとして、11月15日に宮崎県警本部から本会へ感謝状が贈呈されました。

県医師会では、施行前より県警免許センター、認知症疾患医療センター等と連携を密にしながら関係会議での説明や会員等を対象に研修会を行い、多くの医療機関の協力を得ることができました。また、施行後は、専門医のみでなく、多くのかかりつけ医が認知症診断等に対応していただいています。会員の皆様へ感謝申し上げます。

道路交通法改正に伴う認知症診断に関する感謝状



認知症高齢者の運転免許更新に関する診断等については以下を参考にしてください。

かかりつけ医で対応が難しい場合にご紹介いただく「医療機関の一覧」と「かかりつけ医向け認知症高齢者の運転免許更新に関する診断書作成の手引き」を宮崎県医師会会員専用ページに掲載していますので、ご覧下さい。

- ・運転免許更新時等の認知症に関する診断書作成対応医療機関一覧
- ・日医作成「かかりつけ医向け認知症高齢者の運転免許更新に関する診断書作成の手引き」

宮崎県医師会HP <http://www.miyazaki.med.or.jp/>

→最下部の「会員専用」(ID、パスワードを入力)→右下欄の「マニュアル等」

- ・宮崎免許センターの相談窓口(医療機関専用)

本制度について、公安委員会が指定する診断書(検査項目、診察項目等)について、診断が困難な場合の対応等について、ご不明な点がある場合に相談してください。

運転免許課 宮崎免許センター 運転適性相談係
電話番号 0985-24-9413
受付時間 9:00~17:00 (平日のみ)

医師国保組合だより

医師国保組合 保健事業のご案内

医師国保組合では、各種保健事業を実施しております。それぞれの実施期間及び接種期間は平成30年3月末日までです。身体の状態をチェックする良い機会です。ぜひご利用ください。

1 健康診断

対 象 者	次のいずれかに該当する被保険者の方々です。 ①組合員、高齢組合員並びにその配偶者 ②ご家族のうち、本年度中に満40歳になる方～74歳の方
実施機関	各地域の健診機関並びに医療機関 ※上記対象者は自院で実施されても請求できます。 費用については、送付しております「健康診断個人票」の検査項目に対して助成します(最大44,950円)。 ※宮崎市郡医師会成人病検診センターにて日曜日に集団健診を実施しています。但し、子宮頸がん検診、内視鏡検査は実施できません。 (予約は当組合に直接お電話ください) ①実 施 日：平成30年1月21日(第3日曜日)、2月11日(第2日曜日) 2月18日(第3日曜日)、3月4日(第1日曜日) ②定 員：各30名 ※1月21日については空きが残りわずかなため、お断りする可能性があります。

2 歯科健康診査

対 象 者	被保険者全員(組合員とその世帯に属する方)並びに高齢組合員
実施機関	宮崎県歯科医師会の会員である歯科医院
健診内容	* AまたはBコースをお選びいただけます(健診のみ実施も可)。 Aコース 歯科健康診査+歯石除去・歯のクリーニング Bコース 歯科健康診査+歯石除去・歯のクリーニング+フッ素塗布 ※歯石除去は保険診療の歯石除去とは内容が異なります。
申込・ 受診方法	①組合員宛にお送りしている申込書に記入の上、組合宛にファックスしてください。 無料券、歯科健康診査票(3枚複写)、質問票、結果票を人数分送付します。 ②歯科医院へ受診の予約をしてください。 *宮崎県歯科医師会の会員であるかを必ずご確認ください。 ③健診当日は、無料券、歯科健康診査票(3枚複写)、質問票、結果票、被保険者証を歯科医院へご持参ください。 ※自己負担はございません。

3 その他保健事業

請求方法等の詳細は、組合員宛に送付しております「保健事業のご案内」、または、当組合ウェブサイトをご覧ください。

- 1) 胃・大腸内視鏡検査の補助
- 2) 低線量ヘリカルCT肺がん検診
- 3) 脳ドック等の補助
- 4) インフルエンザワクチン接種補助
- 5) 肺炎球菌ワクチン接種補助

※申請書は、当組合ウェブサイトからもダウンロードできます。
<http://www.miyazaki.med.or.jp/kokuho/>

(問合せ先) 宮崎県医師国民健康保険組合
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地

TEL：0985-22-6588 FAX：0985-27-6550

日医インターネットニュースから

■診療報酬「2%半ば以上」マイナスを — 財務省 —

財務省は10月25日、社会保障各論をテーマとした財政制度等審議会・財政制度分科会(分科会長＝榊原定征・経団連会長)で、2018年度診療報酬改定に向け、薬価なども含めた全体(ネット)で「2%半ば以上」のマイナス改定にすべきだとの主張を示した。診療報酬本体については「一定程度」のマイナス改定とし、国民負担を抑制する必要があるとしている。

18年度介護報酬改定についても、介護人材の処遇改善のために17年度に先行実施したプラス1.14%の臨時改定を踏まえ、保険料負担増を極力抑制する観点からマイナス改定が必要と提言している。

財務省は分科会に提出した資料で、国民医療費が年平均2.5%のペースで増加し、うち高齢化等の要因による増加分は1.2%だと説明。残りは他の要因による増加であり、医療費の伸びを高齢化等の範囲内とするためには、2年に1度の診療報酬改定で全体で2%半ば以上のマイナス改定にする必要があると主張した。保険料率をこれ以上上昇させないためにも、この程度のマイナス改定が必要としている。

仮に改定率をマイナス1%とした場合、国民負担(税、保険料、患者負担)は約4500億円抑制できるという。改定率が一定程度マイナスであっても、診療行為の増加で診療報酬総額は増えるため、「医療機関の増収は確保される」とも主張している。

診療報酬本体については、賃金や物価の水準と比べて高い水準になっていると改めて指摘。診療報酬本体と賃金・物価の増減の推移を比べたグラフについて、基準年を▽1990年▽95年▽97年▽99年▽2008年—に設定した5種類を作成し、いずれも診療報酬の方が高い水準になって

いることを示した。「基準年の設定が恣意的」との批判が医療界にあることを意識したとみられる。

診療報酬の各分野については、「政策的必要性を精査したメリハリ付け」を実施していく必要があると指摘。地域医療構想の実現や、適切な医療提供体制の構築といった観点も踏まえ▽7対1入院基本料等の見直し▽療養病床における標準報酬の適正化▽診療科ごとの不均衡の是正—などを実施すべきだと提言している。

介護報酬については、17年度臨時改定のプラス1.14%と18年度改定を合わせた結果が「次期介護保険事業計画の保険料負担に直結する」として、18年度改定では「報酬水準の引き下げや(経済・財政再生計画改革)工程表に沿った見直し」などに取り組む必要があると主張している。

(平成29年10月27日)

■「プラス改定必要なのは明白」

— 実調結果受け、中川副会長 —

厚生労働省が11月8日の中医協で、2018年度診療報酬改定の基礎資料となる第21回医療経済実態調査(実調)の結果概要を報告したことを受け、中川俊男副会長は同日の記者会見で「今回の結果は近年になく悪い。特に病院が悪い。プラス改定にしなければならないのは明白だ」と強調した。また財務省がネットで2%台半ば以上のマイナス改定を主張していることを踏まえ「実調の結果を見て、財務省はそれでも『マイナス改定にすべき』と言うのだろうか」と疑問符を付けた。

今回の実調の結果によると、16年度改定前後の2事業年度(15年度、16年度)の損益差額率は、一般病院全体ではマイナス3.7%からマイナス4.2%と、0.5ポイント悪化。精神科病院は0.2%からマイナス1.1%とマイナスに転じた。この点について中川副会長は「一般病院、精神科病

院とも赤字で、厳しい状況と受け止めている」と語った。

一般病院の損益差額率の低下については「給与費率の上昇によるものと考えられる」と分析。医療法人では、給与費率が54.5%から55.3%へ0.8ポイント上昇したと指摘した。

一方、一般病院の1施設当たりの給与費総額が増えているのに対し、1人当たりの平均給与費は伸びていないことから「1病院当たりの従事者数が増加しているのではないかと指摘。また「医療・福祉分野が全産業の平均給与を押し下げている」と説明した上で「医療機関は地域の雇用を支え、地域経済に貢献している。経済成長を促すためにも医療への適切な財源の投入を強く求めたい」と訴えた。

会見では、16年度の一般病院の損益差額率と税引後利益率にも言及。医療法人は損益差額率1.8%、税引後利益率が1.4%だったが「このわずかな黒字では、再生産費用や質を担保するためのコストを出せない。かなりの民間病院が血のにじむような努力をしている」と強調した。一方、公立病院については「損益差額率がマイナス13.7%だが、一般会計からの繰り入れにより税引後利益率はマイナス3.2%まで改善する。それでも赤字なのは、一つの大きな問題だ」と指摘。国公立・公的と医療法人における看護職員・医療技術員の給与水準の格差にも触れた。

さらに総務省の「新公立病院改革ガイドライン」に基づき、新公立病院改革プランの策定が進んでいることを踏まえ、中川副会長は「各地域医療構想区域内で公立病院がどう立ち振る舞うか、強く問われている。もし区域内で民間医療機関と公立病院が競合している状況があれ

ば、このような経営状態で多額の税金投入が続くことがどうなのか。公立病院自らが真摯に受け止めて考えてほしい」と訴えた。

(平成29年11月10日)

■安倍首相と面会、18年度プラス改定要望 — 横倉会長 —

横倉義武会長は11月9日、首相官邸で安倍晋三首相と面会し、2018年度診療報酬改定のプラス改定を要望した。安倍首相は、必要な医療を国民が受けられるよう、適切に財源を手当てすることへの理解を示したという。

横倉会長は、第21回医療経済実態調査の結果でも示されたような医療の危機的状況、医療分野が雇用の受け皿になっていることなどを説明した。具体的には、医療機関の医療従事者数は、常勤換算で02年は252万人だったが、14年には304万人まで増加。また全就業者に占める医療・福祉分野の就業者の割合は、全国平均で11.9%に達しており、特に地方でその割合が高い。横倉会長はこうしたデータを示しながら、医療分野の雇用面での貢献を強調した。

一方、一般企業に比べると、医療機関の賃上げのペースが遅れていることを示す資料も提示。診療報酬の本体部分には、医療従事者の人件費や設備関係費・ランニングコストなどが含まれていることから、医療機関の運営が成り立つような対応を求めた。

安倍首相との面会では、10月の衆院選で自民党が大勝したことへの祝意を表したほか、横倉会長が同月に世界医師会長に就任したことなども報告した。

(平成29年11月14日)

日医インターネットニュースは、日本医師会のホームページからご覧になれます(毎週火・金更新)。

日本医師会(<http://www.med.or.jp/>)>メンバーズ>日医インターネットニュース

メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザ ID：会員 ID(日医刊行物送付番号)の10桁の数字(半角)

◆パスワード：生年月日の「西暦の2桁、月2桁、日2桁」の6桁の数字(半角)



平成29年10月17日(火)第7回全理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療関係)事業提案及び意向調査結果について

事業区分Ⅰの「地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業」について、各郡市医師会及び各専門分科医会から3件の事業提案があり、県に提出することが承認された。

2. 12/2(土)(日医)平成29年度家族計画・母体保護法指導者講習会の開催について

「産婦人科領域における医療安全」をテーマに開催される指導者講習会で、濱田副会長が出席することが承認された。

3. 九州医師会連合会救急・災害医療担当理事連絡協議会及び感染症担当理事連絡協議会の提案事項について

救急・災害医療は小牧常任理事、感染症は高村常任理事が責任者となって提案事項等をまとめることが承認された。

4. 11/9(木)(JA-AZM)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会について

4 医療機関を対象に行われる個別指導で、佐々木(幸)常任理事を立会人として派遣することが承認された。

5. 11/3(金)(宮崎市)平成29年度大規模津波防災総合訓練の開催について

地震による大規模津波の被害軽減を目指すと共に、津波に対する知識の普及・啓発を図ることを目的に開催する防災総合訓練で、小牧・佐々木(幸)常任理事が参加することが承認された。

6. 11/12(日)(東京)NBCR対策推進機構 第4回「化学テロ・化学災害対策担当者養成講習会」の開催について

「救命救急医・産業医等及び化学災害対策担当者等が知っておくべきこと」を副題に開催される講習会で、参加の是非を含め、救急災害医療担当役員で検討することが承認された。

7. 「国民医療を守るための総決起大会」への参加依頼について

持続可能な社会保障制度の確立に向け、適切な財源確保と消費税問題の抜本的解決を目的に開催される国民集会で、日本医師会から動員要請があり、河野会長、立元・池井常任理事が参加することが承認された。

8. 医療事故調査支援委員会の委員について

任期満了に伴う委員の交代で、新委員7名を含む合計23名の委員を委嘱することが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について

2. 10/11(水)(支払基金)支払基金幹事会について

3. 10/5(木)(日医)日医公衆衛生委員会について

4. 10/16(月)(県医)専門医共通講習会「医療倫理・感染対策」について

5. 10/12(木)(県医)県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会について

6. 10/12(木)(JA-AZM)社会保険医療担当者の個別指導について

7. 9/14(木)(JA-AZM)社会保険医療担当者の個別指導について

8. 9/16(土)(県医)産業医研修会(前期)について
9. 9/27(水)(宮崎労働局)労災診療指導委員会について
10. 9/30(土)(県医)県有床診療所協議会総会・講演会について
11. 10/11(水)(県医)健康スポーツ医学委員会について

医師協同組合理事・運営委員合同協議会
(報告事項)

1. 9/26(火)(県医)医協理事会について
- 医師連盟関係
(報告事項)
1. 10/13(金)(宮観ホテル)羽生田参議院議員との意見交換会について

平成29年10月24日(火)第19回常任理事協議会

医師会関係
(議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について
 - ①生活保護法に基づく児湯福祉事務所精神科嘱託医の推薦について
→嘱託医の退職に伴う推薦依頼で、現在、中央福祉こどもセンターで精神科嘱託医に就任している首藤謙二先生を推薦することが承認された。
 - ②宮崎県献血推進協議会委員の推薦について
→献血への理解と血液事業の適正な運営を目的に設置される協議会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き峰松理事を推薦することが承認された。
2. 後援・共催名義等使用許可について
 - ①H30.2/18(日)乳がんフォーラムみやざき2018の名義後援について
→「もしもの時の向き合い方」を副題に、講演及び医療相談等が行われるフォーラムで、名義後援を行うことが承認された。
3. 会費減免申請について

高齢による2名の会費減免(日医・県医1名、県医のみ1名)が承認された。

4. 九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会について(九州厚生局長より)

2医療機関を対象に行われる個別指導で、川野理事を立会人として派遣することが承認された。また、立会人の情報共有を目的として、個別指導等で問題があった場合には、速やかに事務局に情報提供することが確認された。

5. 平成29年度全国メディカルコントロール協議会連絡会(第2回)の開催について

この連絡会は年に複数回開催されるため、今回は参加を見送ることが承認された。

6. 12/16(土)(大分)日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック別会議の開催について

日医が実施する女性医師支援センター事業の一環として開催されるブロック会議で、荒木常任理事と糸数理事が出席することが承認された。

7. 11/9(木)(東京)日医・米国研究製薬工業協会(PhRMA)共催シンポジウムについて

今回は「超高齢社会における緩和ケアのあり方」をテーマに開催されるシンポジウムで、宮崎市郡医師会病院の永井公洋先生を派遣することが承認された。

8. 11・12月の行事予定について

11月の追加行事について確認が行われた。
(報告事項)

1. 週間報告について
2. 10/18(水)(宮観ホテル)宮崎市郡医師会10月例会並びにしのめ医学会特別講演会について
3. 10/19(木)(県庁)県障害者施策推進協議会について
4. 10/23(月)(県医)県医療事故調査支援団体連

絡協議会・県医医療事故調査支援委員合同
会議について

5. 10/18(水)・23(月)(県医)広報委員会について
6. 10/21(土)(JA-AZM)県訪問看護ステーション連絡協議会総会・研修会について
7. 10/24(火)(県庁)県医療費適正化計画策定検討委員会について
8. 10/22(日)(ニューウェルシティ)宮崎から医師をめざそう！フォーラムについて
9. 10/21(土)(県医)産業医研修会(実地)について
10. 10/18(水)(県医)都道府県医師会小児在宅ケア担当理事連絡協議会について

医師連盟関係

(報告事項)

1. 10/22(日)衆議院議員総選挙の結果について

平成29年11月7日(火)第20回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 後援・共催名義等使用許可について

①12/16(土)(西都市)「市民公開講座(学術講演会)」の名義後援について

→「あなたはいつ始めるの？～コツコツ学ぶ骨粗しょう症のお話とロコモ体操」をテーマに開催される市民公開講座で、名義後援を行うことが承認された。

②H30.2/17(土)(県立看護大学)子どもとメディアみやざき第1回フォーラムの名義後援について

→「電子メディア社会の子どもたち～宮崎の現状～」をテーマに開催されるフォーラムで、名義後援を行うことが承認された。

2. 11/14(火)(県医)県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会について

当日のスケジュール及び要望書の最終確認が行われ、本会から医師確保を含む8つ

の要望を提出すると共に、一部提案郡市医師会に内容を確認することが承認された。

3. 11/29(水)(宮崎市)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会について

1 医療機関を対象に行われる個別指導の再開で、石川常任理事を立会人として派遣することが承認された。

4. 11/30(木)(宮崎市)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会について

1 医療機関を対象に行われる個別指導で、嶋本理事を立会人として派遣することが承認された。

5. 宮崎県地域医療・福祉推進協議会代表者会について

10/10の常任理事協議会で承認された「国民医療を守るための国民運動」の展開について、本県の協議会を代表者会とすること及び、11/22の総決起大会の議論を中心に決議文を提案すること等が承認された。なお、代表者会の開催日については再調整することとなった。

6. 業務委託について

①平成29年度小児救急医療電話相談事業の委託契約について

→小児救急患者と保護者の不安軽減と、小児科救急医の負担軽減を目的に、1年365日、19時から翌朝8時まで、県民からの電話相談に応ずる事業で、契約を締結することが承認された。

②平成29年度訪問救急救室事業の委託契約について

→保育所や幼稚園に小児科医師を派遣し、保護者・職員等を対象に小児救急の基礎知識や正しい受診のあり方を伝える研修事業で、契約を締結することが承認された。

(報告事項)

1. 10月末日現在の会員数について
2. 10/27(金)(福岡) 九医連常任委員会について
3. 11/ 1 (水)(日医) 日医設立記念医学大会について
4. 11/ 1 (水)(県庁) 県健康づくり推進協議会について
5. 11/ 2 (木)(県医) 日医社保指導者講習会復講について
6. 10/26(木)(JA-AZM) 社会保険医療担当者の個別指導について
7. 10/27(金)(福岡) 九医連臨時委員総会について
8. 10/28(土)(福岡) 九州医師会総会・医学会について
9. 11/ 3 (金)(ハイビスカスG.C.) 県医親善ゴルフ大会について
10. 10/28(土)(福岡) 九医連第 1 回各種協議会及び報告会について
11. 11/ 3 (金)(宮崎港) 大規模津波防災総合訓練について
12. 11/ 5 (日)(県医) おくすりについての市民公開講座について
13. 11/ 7 (火)(県医) 治験審査委員会について
14. 10/30(月)(県医) 県糖尿病発症予防・糖尿病性腎症重症化予防指針に係る説明会について
15. 11/ 2 (木)(県医) 介護保険委員会について
16. 11/ 6 (月)(県医) 県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会(三者協議会)について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 11/29(水)(東京) 第20回武見セミナーのご案内について
平成29年の総決算と更なる飛躍を願い開催されるセミナーで、協力することが承認された。

11月のベストセラー (宮崎県)

集計：2017年11月 1 日～ 11月25日

1 漫画版 君たちはどう生きるか	吉 野 源 三 郎	マガジンハウス
2 君たちはどう生きるか	吉 野 源 三 郎	マガジンハウス
3 僕はロボットごしの君に恋をする	山 田 悠 介	河出書房新社
4 島抜けの女	佐 伯 泰 英	角川春樹事務所
5 陸 王	池 井 戸 潤	集 英 社
6 バカ論	ビ ー ト た け し	新 潮 社
7 日の名残り	カズオ・イシグロ	早 川 書 房
8 九十歳。何がめでたい	佐 藤 愛 子	小 学 館
9 未来の年表	河 合 雅 司	講 談 社
10 マスカレード・ナイト	東 野 圭 吾	集 英 社

県 医 の 動 き

(11月)

1	日医設立記念医学大会[日医] (会長他) 県健康づくり推進協議会(富田副会長)		
2	介護保険委員会(会長他) 日医社保指導者講習会復講(TV会議)	16	社会保険医療担当者の個別指導(川野理事) 県高齢者サービス総合調整推進会議 (金丸常任理事)
3	県医親善ゴルフ大会 大規模津波防災総合訓練(小牧常任理事他)		労災診療費算定実務研修会 広報委員会(富田副会長他) 自殺対策うつ病研修会(TV会議) (会長他)
4	県整形外科医会研修会(川野理事) (東京)全国医師協同組合通常総会(富田理事長他)	17	県外科医会秋期講演会(岩村理事)
5	おくすりについての市民公開講座 (小牧常任理事他)	18	(長崎)日本産婦人科医会九州ブロック協議会 (三重)全国学校保健・学校医大会(富田副会長他) 産業医研修会(TV会議) (小牧常任理事他)
6	県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会(三者協議会) (濱田副会長他)	19	(長崎)日本産婦人科医会九州ブロック協議会 世界糖尿病デー市民公開講座(金丸常任理事)
7	治験審査委員会(富田副会長他) 第20回常任理事協議会(会長他) 母体保護法指定医師審査委員会(濱田副会長他)	21	県国保運営協議会(佐藤理事) 医協打合せ会(立元副理事長) 第21回常任理事協議会(会長他) 県周産期医療協議会(濱田副会長他)
8	宮大医学部医の倫理委員会(糸数理事) (日医)日医医療秘書認定試験委員会(富田副会長) 支払基金幹事会(会長) 県がん対策審議会(会長) 県糖尿病発症予防・糖尿病性腎症重症化予防 指針に係る説明会についての検討会 (金丸常任理事) 県産婦人科医会と宮崎市福祉部との協議会 (濱田副会長他)	22	(東京)国民医療を守るための総決起大会(会長他) 県総合診療円卓会議(金丸常任理事)
9	社会保険医療担当者の個別指導(佐々木常任理事) みやざき愛の献血運動推進県民大会(会長) 県認知症疾患医療センター合同会議 (金丸常任理事他) 県産婦人科医会常任理事会(濱田副会長他)	24	県医療審議会(会長) 広報委員会(荒木常任理事他) 県感染症危機管理・予防接種実務担当者研修会 (TV会議) (高村常任理事他)
10	(日医)日医予防接種・感染症危機管理対策委員会 (峰松理事) 宮崎銀行との懇談会(会長他)	25	ICLS指導者養成ワークショップ (福岡)九州学校検診協議会専門委員会 (高村常任理事) 宮大医学部附属病院研修ローテート等説明会 (立元常任理事) (福岡)九州各県医師会学校保健担当理事者会 (高村常任理事) (福岡)九医連学校医会評議員会(高村常任理事)
11	県産婦人科医会ALSOプロバイダーコースin宮崎 九州理学療法士・作業療法士合同学会2017in 宮崎開会式(佐藤理事)	26	ACLS研修会
12	県産婦人科医会ALSOプロバイダーコースin宮崎	27	生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸 がん検診研修会) (TV会議) (会長他) 医師国保組合理事会(秦理事長他)
13	医療安全対策セミナー(TV会議) (富田理事長他) 県内科医会会誌編集委員会(小牧常任理事)	28	九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 (小牧常任理事) 医協理事会(富田理事長他) 第22回常任理事協議会(会長他)
14	県経済団体協議会代表者会議(会長) 宮大医学部附属病院医師研修管理委員会(会長) 第8回全理事協議会(会長他) 医協理事・運営委員合同協議会(会長他) 県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会 (会長他)	29	宮崎地方労働審議会(佐藤理事) 社会保険医療担当者の個別指導(石川常任理事) 労災診療指導委員会(川野理事他) (日医)日医公衆衛生委員会(吉田常任理事)
15	(日医)日医救急災害医療対策委員会 (佐々木常任理事) 県医療計画策定委員会(富田副会長他) 感謝状(認知症関係)贈呈式(会長) 医協会計監査(富田理事長他)	30	社会保険医療担当者の個別指導(嶋本理事) (日医)日医医療IT委員会(荒木常任理事) 認知症サポート医フォローアップ研修会(TV会議) (富田副会長他)

私 の 本



宮崎市 長嶺内科クリニック
なが みね もと ひさ
長 嶺 元 久

歌集 『百通り』

発行所 本阿弥書店
帯 文 伊藤一彦
定 価 本体 2,700円(税別)

私は平成24年11月に第一歌集『カルテ棚』を上梓しました。その後、短歌を詠み続け、このたび、四百二首をまとめて第二歌集『百通り』を上梓しました。歌は第一歌集と同じく、診療を題材にしたものが多く、他に家族、風土などを詠んだ作も収載されています。自選歌五首を以下に挙げます。

いち日の診療のなかいたつきの癒えたる人の「につこり」に遇ふ

百人の生まれ出づれば百通り生き方のあり逝き方がある

妻線と高千穂線を喪ひし日向の国を「ななつ星」行く

真つ先に焼香をして火葬場に鉤を押せる長男のわれ

針仕事全くせざるわれの中に縫工筋とふ部位ありと聞く

歌集の題『百通り』は、二首目の歌に拠りました。県立図書館、市立図書館、県医師会図書室には寄贈してあります。

ご一読いただければ、幸甚に存じます。



ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成29年11月14日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとりの情報がよせられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み、お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

1. 求職者登録数 5人

1) 男性医師求職登録数 5人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
内科	2	0	2
胃腸科・放射線科	1	0	1
老健	2	1	1

2) 女性医師求職登録数 0人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
	0	0	0

2. 斡旋成立件数 59人 (人)

	男性医師	女性医師	合計
平成29年度	3	1	4
平成16年度から累計	43	16	59

3. 求人登録 88件 334人 (人)

募集診療科目	求人数	常勤	非常勤
内科	100	75	25
外科	31	24	7
整形外科	26	22	4
精神科	16	14	2
循環器科	11	7	4
脳神経外科	12	8	4
消化器内科	16	12	4
麻酔科	13	10	3
眼科	6	4	2
放射線科	10	9	1
小児科	4	2	2
呼吸器内科	14	12	2
リハビリテーション科	4	4	0
総合診療科・内科	3	3	0
神経内科	8	6	2
救命救急科	9	9	0
健診	8	5	3
産婦人科	1	1	0
泌尿器科	0	0	0
検診	3	1	2
皮膚科	5	2	3
人工透析	5	4	1
在宅担当医	2	2	0
その他	27	23	4
合計	334	259	75

求 人 登 録 者(公開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施 設 名	所 在 地	募集診療科	求人数	勤務形態
160011	赤十字センター	宮 崎 市	検診	3	常勤・非常勤
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮 崎 市	脳外,整,放,麻,内	9	常勤・非常勤
160017	医)プレストピア プレストピア宮崎病院	宮 崎 市	乳外,放,麻	3	常勤
160020	財)弘潤会 野崎病院	宮 崎 市	精,内	2	常勤
160031	社医)同心会 古賀総合病院	宮 崎 市	呼内,神内,総診,呼外,病理, 乳外,整,麻,代内	9	常勤
160033	医)如月会 若草病院	宮 崎 市	精,	1	常勤
170046	医)社団善仁会 市民の森病院	宮 崎 市	消内,内分泌糖内,呼内,リウ, 神内,健診	9	常勤・非常勤
170048	医)慶明会 けいめい記念病院	国 富 町	内,放	2	常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮 崎 市	内,神内,整,消内,腫内	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮 崎 市	消内,呼内,総診	6	常勤
190094	医)耕和会 迫田病院	宮 崎 市	内,外	2	常勤
190095	医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮 崎 市	眼	1	常勤
200104	医)社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮 崎 市	内,外,救急,呼外,婦人,整,麻	12	常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮 崎 市	外	1	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮 崎 市	整	1	常勤
210128	医)真愛会 高宮病院	宮 崎 市	精	2	常勤
230132	医)康友会 青島クリニック	宮 崎 市	内	1	常勤
230134	医)慈光会 宮崎若久病院	宮 崎 市	精	2	常勤
230139	介護老人保健施設 サンフロラみやざき	国 富 町	内,外	2	常勤
230143	医)社団孝尋会 上田脳神経外科	宮 崎 市	脳外,内	2	常勤
230144	宮崎生協病院	宮 崎 市	呼内,消内,健診,麻	7	常勤・非常勤
230146	財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮 崎 市	内,外,整,脳外,リハ,麻,救急, 緩和	13	常勤
230148	医)コムロ美容外科	宮 崎 市	美外,形成外,外,麻	8	常勤・非常勤
230161	医)健心会 滝口内科医院	宮 崎 市	内,皮	2	非常勤
230164	宮崎県保健所	宮 崎 市	公衆衛生	3	常勤
230175	社会福祉法人 キャンパスの会	宮 崎 市	内,小,整(いずれか)	1	常勤
230177	医)社団尚成会 近間病院	宮 崎 市	内,消内,消外,放(いずれか)	1	常勤
230178	介護老人保健施設 むつみ苑	宮 崎 市	内	1	常勤
230180	一社)藤元メディカルシステム 藤元中央病院	宮 崎 市	内,糖内,呼内,血内	4	常勤
230184	グリーンケア学園木花台	宮 崎 市	内	1	非常勤
230185	医)朋詠会 獅子目整形外科病院	宮 崎 市	整,内	2	常勤
160010	特医)敬和会 戸嶋病院	都 城 市	内,消内,整,神内	7	常勤・非常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都 城 市	内,放,脳外,外,眼,透,皮,腎内	16	常勤・非常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都 城 市	内,外,整	3	常勤
180064	国立病院機構都城医療センター	都 城 市	呼内,総診,消内,腫内	4	常勤
180081	恵心会 永田病院	都 城 市	精	2	常勤・非常勤
190092	都城市郡医師会病院	都 城 市	内,呼内,消内	5	常勤
210114	藤元病院	都 城 市	精,内	3	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都 城 市	消内,消外,乳外	5	常勤・非常勤
230137	医)宏仁会 海老原内科	都 城 市	内	1	常勤

登録番号	施 設 名	所 在 地	募集診療科	求人数	勤務形態
230142	医)魁成会 宮永病院	都 城 市	内,リハ	2	常勤
230153	都城健康サービスセンター	都 城 市	内	1	非常勤
230162	藤元総合病院	都 城 市	内,透,循内,救急,放,呼内	12	常勤
230172	医)静雄会 藤元上町病院	都 城 市	内	2	常勤
230179	医)与州会 柳田病院	都 城 市	外	1	常勤
230181	介護老人保健施設 はまゆう	三 股 町	内	1	常勤
230183	医)恵心会 坂元医院	都 城 市	消内,老人内,内	5	常勤・非常勤
160012	医)伸和会 共立病院	延 岡 市	外,整,放,内	6	常勤
160021	医)建悠会 吉田病院	延 岡 市	精	3	常勤・非常勤
160034	特医)健寿会 黒木病院	延 岡 市	消外,消内	4	常勤・非常勤
190086	早田病院	延 岡 市	消内,循内	2	常勤
200100	医)育生会 井上病院	延 岡 市	産婦,内,小	3	常勤・非常勤
200102	延岡市医師会病院	延 岡 市	消内,消外,内	3	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延 岡 市	内,小	2	非常勤
230156	医)中心会 野村病院	延 岡 市	内,外	2	常勤
230163	堺胃腸科内科クリニック	延 岡 市	内,胃内,消内,呼内,循内	6	非常勤
230186	医)隆誠会 延岡保養園	延 岡 市	精	1	常勤
160039	医)誠和会 和田病院	日 向 市	外,整	4	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門 川 町	内,麻	3	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美 郷 町	内,整	2	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美 郷 町	内,整	2	常勤
230160	日向市立東郷病院	日 向 市	内,整	2	常勤
160006	都農町国保病院	都 農 町	内,放,外,健診	5	常勤・非常勤
160023	医)宏仁会 海老原総合病院	高 鍋 町	内,腎内,麻,総診,外,整,脳外,眼,健診	13	常勤・非常勤
230170	介護老人保健施設 なでしこ園	高 鍋 町	内	1	常勤
230187	国立病院機構宮崎病院	川 南 町	呼内,循内,糖内,神内,小,整	12	常勤・非常勤
160024	医)隆徳会 鶴田病院	西 都 市	内	1	常勤
150002	医)慶明会 おび中央病院	日 南 市	内	4	常勤・非常勤
150003	医)同仁会 谷口病院	日 南 市	内	1	非常勤
160022	医)愛鍼会 山元病院	日 南 市	内	1	常勤
160037	医)十善会 県南病院	串 間 市	精,内	2	常勤
170047	日南市立中部病院	日 南 市	内,外,整,在宅	4	常勤
180071	串間市民病院	串 間 市	内,外,総診,消内,腎内	5	常勤
230149	介護老人保健施設 おびの里	日 南 市	内	1	常勤
230166	医)秀英会 介護老人保健施設 長寿の里	串 間 市	内	1	常勤
230168	医)月陽会 きよひで内科クリニック	日 南 市	内	7	常勤・非常勤
230188	医)春光会 日南春光会病院	日 南 市	外,内	4	常勤・非常勤
160019	医)相愛会 桑原記念病院	小 林 市	内,皮	4	常勤・非常勤
170043	医)和芳会 小林中央眼科	小 林 市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小 林 市	救急,総診,放	5	常勤
180076	医)けんゆう会 園田病院	小 林 市	外,循内,整,脳外	9	常勤・非常勤
190090	特医)浩然会 内村病院	小 林 市	精	1	常勤
190091	医)友愛会 野尻中央病院	小 林 市	整,内,脳外	6	常勤・非常勤
230167	介護老人保健施設 さわやかセンター	小 林 市	内	1	非常勤
230169	医)連理会 和田クリニック	小 林 市	内	2	常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内,外	2	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内,透	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内,外(いずれか)	1	常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡、賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成29年11月14日現在

1. 譲渡物件	① 宮崎市阿波岐ヶ原町前田2633番, 2634番 土地のみ: 2,022.17㎡(612.77坪)	所有者: 児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	② 西都市中央町2丁目6番地 土地: 2,280.83㎡(691.16坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74㎡ } 2階 547.79㎡ } 1,400.48㎡(424.38坪) 3階 177.95㎡ } ※別途駐車場あり(20台)	所有者: 西都市西児湯医師会員 図師医院跡
2. 譲渡又は 賃貸物件	① 小林市南西方49番地1 土地: 1,991.34㎡(603.43坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根2階建 1階 471.41㎡ } 2階 638.35㎡ } 1,109.76㎡(336.29坪) ※駐車場あり(30台)	所有者: (医) 社団 産婦人科 生駒クリニック
	② 日向市鶴町2丁目9番15号 土地: 792㎡(240坪) 建物: RC造 鉄骨造 1階 237.49㎡ } 2階 338.25㎡ } 913.99㎡(276.96坪) 3階 338.25㎡ } ※駐車場あり(10台)	所有者: 日向市東臼杵郡医師会員 三ヶ尻整形外科跡
3. 賃貸物件	① 延岡市無鹿町1丁目710 土地: 1,654.58㎡(501.38坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根4階建 1階 145.76㎡ } 2階 338.70㎡ } 829.40㎡(251.33坪) 3階 330.69㎡ } 4階 14.25㎡ } ※駐車場あり(50台)	所有者: (医) 社団 隆豊会 江崎医院跡

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し、求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は、月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は、所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は、「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先 **ドクターバンク無料職業紹介所**

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地(宮崎県医師協同組合)
TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179
E-mail: isikyou@miyazaki.med.or.jp

日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

宮崎県医師会広報委員会

E-Mail : genko@miyazaki.med.or.jp

FAX : 0985-27-6550

TEL : 0985-22-5118

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は、このページを切り取り、
裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX : 0985-27-6550

きりとりせん

お名前： _____

ご所属： _____

TEL： _____ FAX： _____

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成29年11月28日

12			月		
1	金	13:30 宮大経営協議会・学長選考会議 19:00 県医監事監査	14	木	17:00 県健康づくり推進協議会 19:00 広報委員会 19:00 西都市西児湯医師会忘年会
2	土	13:00 (日医)家族計画・母体保護法 指導者講習会 14:00 在宅医療研修会企画委員会 15:00 生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・ 胃・大腸がん検診研修会)(TV会議)	15	金	14:30 (日医)日医救急災害医療対策委員会 18:30 指導医のための 教育ワークショップ打合せ会 19:00 広報委員会 19:00 医協打合せ会
3	日	14:00 (福岡)福岡県医師会創立70周年記念式典・ 祝賀会/日医横倉義武会長のCMAAO 会長・WMA会長就任をお祝いする会	16	土	9:00 指導医のための 教育ワークショップ 9:00 臨床研修事務担当者のための 教育ワークショップ 14:00 (大分)女性医師支援センター 事業九州ブロック会議 15:00 母体保護法指定医師研修会
4	月	15:00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会	17	日	8:00 指導医のための 教育ワークショップ
5	火	8:00 (東京)自民党議員連盟 「国民医療を守る議員の会」 18:00 治験審査委員会 19:00 第23回常任理事協議会	18	月	
6	水	14:30 情報通信訓練/衛星利用実証実験 (近畿大震災想定訓練)(日医TV会議) 17:00 地域医療における働きやすい環境 を考える会学生向けセミナー 19:00 都城市北諸県郡医師会忘年会	19	火	18:00 医協理事会 18:30 第9回全理事協議会 19:00 役職員懇談会
7	木	13:00 社会保険医療担当者の個別指導 13:30 (日医)都道府県医師会医事紛争 担当理事連絡協議会 19:00 延岡市医師会会員忘年会	20	水	15:00 (日医)日医医療秘書認定試験 委員会
8	金	19:00 地域医療構想委員会 19:00 医学賞選考委員会	21	木	19:00 県感染症危機管理研修会 (TV会議) 19:00 医師会立看護学校担当理事連絡 協議会
9	土	14:00 かかりつけ医認知症対応力向上 研修会(TV会議) 18:00 県産婦人科医会全理事会	22	金	13:30 都道府県医師会地域医療構想 担当理事連絡協議会 (日医TV会議) 19:00 医師国保組合理事会
10	日		23	土	(天皇誕生日)
11	月	19:00 生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・ 胃・大腸がん検診研修会)(TV会議) 19:00 宮崎の医療を考える会 (若手記者との勉強会)	24	日	
12	火	13:30 県両立支援推進チーム会議 18:00 県地域医療・福祉推進協議会代表者会 19:00 第24回常任理事協議会	25	月	
13	水	13:30 DV被害者保護支援ネットワーク会議 14:00 宮大医学部医の倫理委員会 14:00 宮大医学部附属病院専門研修 プログラム連絡協議会 15:15 県産婦人科医会 「さぼーとねっと宮崎」関係者会議 16:00 支払基金幹事会 18:30 県がん対策審議会	26	火	13:30 県自殺対策トップセミナー 18:00 九州地方社会保険医療協議会宮 崎部会 19:00 第25回常任理事協議会
			27	水	15:00 労災診療指導委員会
			28	木	
			29	金	(年末休業)
			30	土	(年末休業)
			31	日	(年末休業)

※都合により、変更になることがあります。

行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成29年11月28日

1			月				
1	月	(年末休業)	17	水	15：00 新人看護職員研修推進協議会	国 保 審 査	
2	火	(年末休業)	18	木	19：00 医師国保組合理事会		
3	水	(年末休業)	19	金			
4	木	13：00 新年賀詞交歓会	20	土	(福岡)九州ブロック産婦人科 医会会長会議		
5	金				14：30 産業医研修会(TV会議)		
6	土	19：00 三師会合同新春懇談会			15：00 (福岡)九州ブロック災害 医療研修会		
7	日				17：10 (福岡)九医連救急・ 災害医療担当理事連絡協議会		
8	月	(成人の日)					
9	火	18：00 治験審査委員会 19：00 第26回常任理事協議会	21	日	9：00 (福岡)九州ブロック災害 医療研修会		
10	水	16：00 支払基金幹事会 18：30 病院部会・医療法人部会合同理 事会			9：00 緩和ケアチーム研修会		
11	木	19：30 県産婦人科医会常任理事会	22	月		社 保 審 査	
12	金	15：00 (日医)日医勤務医委員会	23	火	19：00 第28回常任理事協議会		
13	土		24	水		社 保 審 査	
14	日	9：00 (日医)在宅医療関連講師人材養 成事業研修会	25	木	19：00 広報委員会		
15	月	19：00 広報委員会 19：00 高次脳機能障がい講演会(TV会 議)	26	金	18：00 九州地方社会保険医療協議会 宮崎部会 19：00 特定健康診査等従事者研修会 (TV会議)		
16	火	13：30 県後期高齢者医療広域連合運営 懇話会	27	土	15：00 県産婦人科医会冬期総会 15：00 (沖縄)九医連HIV医療講演会 17：00 (沖縄)九医連感染症担当理事 連絡協議会 17：00 (沖縄)九医連常任委員会		
		14：00 (日医)日医連常任執行委員会 14：20 (日医)都道府県医師会長協議会 16：30 (日医)日医連執行委員会 19：00 第27回常任理事協議会					
				28	日		
				29	月		
			30	火	19：00 第10回全理事協議会		
			31	水	15：00 労災診療指導委員会		

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

医 学 会 ・ 講 演 会

日本医師会生涯教育講座認定学会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード(当日，参加証を交付)

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会(胃・大腸・肺・乳)

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
平成29年度宮崎県 医師会生活習慣病 検診従事者研修会 (がん検診指定研 修会)【TV会議】 12月2日(土) 15:00～17:00 県医師会館【TV会 議場:都城，延岡， 日向，児湯，西都， 西諸】	肺がんの診断と治療最前線 宮崎県立宮崎病院内科医長 感染管理科長 姫路 大輔	7 (0.5) ⑧	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	乳癌個別化治療と早期発見の重要性 プレストピア宮崎病院副院長 乳腺外科診療部長 玉田 修吾	11 (0.5) ⑨	
	胃癌に対する宮崎大学の取り組み 宮崎大学医学部外科学講座准教授 武野 慎祐	12 (0.5) ⑩	
	大腸癌の最近の話題 宮崎大学医学部消化器血液学分野講師 山本 章二郎	82 (0.5) ⑪	
第78回宮崎県精神 科医会懇話会 12月2日(土) 17:30～19:00 宮崎観光ホテル	うつ病の愛着モデル：脆弱性の形成機序を中心に 山形大学医学部精神医学教室教授 大谷 浩一	69 (0.5) 70 (0.5) 72 (0.5)	◇主催 ※宮崎県精神科医会 ☎0982-37-0126 ◇共催 大塚製薬(株)

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
平成29年度在宅医療従事者のための研修会 12月5日(火) 18:30～20:00 ホテル四季亭	在宅医療・介護連携 ー児湯郡における多職種連携のためにー 宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授 吉村 学	10 (0.5) 13 (0.5) 80 (0.5)	◇主催 ※児湯医師会 ☎0983-22-1641
宮崎市郡内科医会 学術講演会 12月8日(金) 19:00～20:40 県医師会館	新概念「フレイル・オーラルフレイル」から考える高齢者マネジメント 東京大学高齢社会総合研究機構教授 飯島 勝矢	11 (0.5) 19 (0.5)	◇主催 宮崎市郡内科医会 ◇共催 第一三共(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
平成29年度かかりつけ医認知症対応力向上研修会【TV会議】 12月9日(土) 14:00～17:30 県医師会館【TV会議場:都城, 延岡, 日向, 児湯, 西都, 南那珂, 西諸】	かかりつけ医認知症対応力向上研修(仮) 大悟病院認知症疾患医療センター長 三山 吉夫 他	4 (0.5) 5 (0.5) 11 (0.5) 12 (0.5) 13 (0.5) 19 (0.5) 29 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
宮崎市郡医師会産業医研修会 12月9日(土) 14:15～17:20 宮崎市郡医師会館	労働衛生関係法令について 宮崎労働基準監督署安全衛生課長 木野宮 柔剛	6 (0.5)	◇主催 ※宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
	基礎研修の後期研修会：1.5単位 生涯研修の専門研修会：1.5単位	12 (0.5)	
	うつ病などで休職している方の復職支援(リワーク支援)の実際ー具体的な内容や事例を交えてー 宮崎障害者職業センター 上席障害者職業カウンセラー 図師 瑞	1 (0.5)	
	基礎研修の後期研修会：1.5単位 生涯研修の専門研修会：1.5単位	11 (0.5) 70 (0.5)	
第176回宮崎県眼科医会講習会 12月9日(土) 16:00～19:30 宮崎観光ホテル	感染性角膜炎の薬物療法と外科療法 愛媛大学医学部大学院生医員 鳥山 浩二	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015 ◇共催 アルコンファーマ(株)
	参加費：3,000円 加齢黄斑変性の診断と治療2017 ー病態に応じた個別化治療を目指してー 秋田大学医学系研究科医学専攻 病態制御医学系眼科学講座講師 齋藤 昌晃	36 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
Infection Seminar in 宮崎 12月9日(土) 17:00～18:40 ホテルJALシティ 宮崎	抗菌薬適正使用のための適正な考え方： 理論と実践の解離 佐賀大学医学部国際医療学講座 ・臨床感染症学分野教授 青木 洋介	8 (0.5) 28 (0.5)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※MSD(株) ☎0985-28-9496 ◇後援 宮崎県医師会
平成29年度宮崎県 医師会生活習慣病 検診従事者研修会 (がん検診指定研 修会)【TV会議】 12月11日(月) 19:00～21:00 県医師会館【TV会 議場:都城, 延岡, 日向, 児湯, 西都, 西諸, 西臼杵】	肺がんの診断と治療最前線 宮崎県立宮崎病院内科医長 感染管理科長 姫路 大輔	7 (0.5) ⑩	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	乳癌個別化治療と早期発見の重要性 プレストピア宮崎病院副院長 柏葉 匡寛	11 (0.5) ⑪	
	胃癌に対する宮崎大学の取り組み 宮崎大学医学部外科学講座准教授 武野 慎祐	12 (0.5) ⑫	
	大腸癌の最近の話題 宮崎大学医学部消化器血液学分野講師 山本 章二郎	82 (0.5) ⑬	
宮崎市郡外科医会 12月例会 12月11日(月) 19:00～20:30 宮崎観光ホテル	消化管・内分泌・小児外科学分野の現状と外科医育成 のための外科学講座の取り組み 宮崎大学医学部外科学講座消化管・内分泌 ・小児外科学分野講師 池田 拓人	53 (0.5) 67 (0.5)	◇主催 宮崎市郡外科医会 ◇共催 マイランEPD合同会社 (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
第121回宮崎市郡 医師会病院心臓病 研究会 12月12日(火) 18:50～20:30 宮崎観光ホテル	イメージングガイドPCI 宮崎市郡医師会病院循環器内科長 栗山 根廣	9 (0.5)	◇主催 宮崎市郡医師会病院心臓病研究会 ◇共催 富士製薬工業(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119
	高血圧診療・研究の最近の話題 宮崎大学医学部内科学講座 循環体液制御学分野教授 北村 和雄	74 (1.0)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
平成29年度医療機関 等結核対策研修会 12月12日(火) 19:00～20:30 高鍋保健所	結核の診断と治療 ー専門医療機関と一般医療機関の連携についてー 国立病院機構宮崎東病院呼吸器内科部長 伊井 敏彦	8 (1.0)	◇主催 ※高鍋保健所 ☎0983-22-1330 ◇後援 児湯医師会 児湯内科医会 西都市西児湯医師会 西都市西児湯内科医会
宮崎県内科医会 学術講演会 12月13日(水) 19:00～20:45 ホテルJALシティ 宮崎	肺高血圧症評価のための心エコー 宮崎大学医学部附属病院 検査部生理検査室主任技師 鈴木 千代子	10 (0.5)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※日本新薬(株) ☎099-258-6021
	肺高血圧診療の現状 宮崎大学医学部内科学講座 循環体液制御学分野助教 鬼塚 久充	43 (0.5) 45 (0.5)	
Diabetes & Incretin Seminar in 宮崎 12月13日(木) 19:00～20:30 宮崎観光ホテル	当院における糖尿病治療戦略 平和台病院 藤崎 弘志郎	76 (0.5)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 宮崎県糖尿病懇話会 日本イーライリリー(株) ※大日本住友製薬(株) ☎0985-29-5855
	新しいGLP-1受容体作動薬が2型糖尿病治療に与える インパクト 愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科准教授 神谷 英紀	10 (1.0)	
日向市東臼杵郡医 師会学術講演会 12月14日(木) 18:50～20:00 ホテルベルフォー ト日向	難治性呼吸器疾患の診断と治療 ー特発性肺線維症とCOPDを中心としてー 宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野助教 松元 信弘	45 (1.0)	◇主催 ※日向市東臼杵郡医師会 ☎0982-52-0222 ◇共催 日向市東臼杵郡内科医会 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
第212回宮崎県泌尿器科医会 12月14日(木) 19:00～20:30 宮崎観光ホテル 参加費:5,000円	新規CRPC治療薬でわかってきたこと 宮崎大学医学部泌尿器科学講座教授 賀本 敏行	9 (1.5)	◇主催 ※宮崎県泌尿器科医会 ☎0985-85-2968
西臼杵郡医師会学術講演会 12月14日(木) 19:00～20:00 ホテル高千穂	NSAID潰瘍に対する新たなトータルマネジメント 大分大学医学部消化器内科学講座准教授 卒後臨床研修センター 水上 一弘	50 (0.5) 52 (0.5)	◇主催 ※西臼杵郡医師会 ☎0982-73-2010 ◇共催 延岡市西臼杵郡薬剤師会 武田薬品工業(株)
Advanced Seminar in Miyazaki 12月14日(木) 19:00～20:30 MRT-micc	VTE治療新ステージの幕開け 神戸大学医学部附属病院総合内科助教 乙井 一典	43 (0.5) 45 (0.5)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※ブリストル・マイヤーズ スクイブ(株) ☎099-805-3325 ファイザー(株)
西都市西児湯医師会学術講演会 12月16日(土) 14:00～16:00 宮崎県立西都原考古博物館	骨粗しょう症の治療ーあなたはいつから始めますかー 西都市西児湯医師会長 松本 英裕 ----- 始める前の口腔管理 野間歯科医院院長 野間 隆文 骨粗しょう症とくすり ーくすりを知って正しく続けようー 西都病院薬剤師 脇田 和儀	77 (0.5) 82 (0.5)	◇主催 ※西都市西児湯医師会 ☎0983-43-1687 ◇共催 西都市 西都市西児湯内科医会 ◇後援 宮崎県医師会 西都児湯歯科医師会 西都地区薬剤師会 西都市南地区包括支援センター 西都市北地区包括支援センター

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
石綿関連疾患診断 技術研修 12月16日(土) 14:00～16:00 JA-AZMホール	石綿関連疾患診断技術研修 長崎労災病院副院長 吉田 俊昭 産業医研修会：生涯研修の専門研修会：2単位	1 (0.5) 7 (0.5) 8 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
平成29年度第1回 母体保護法指定医 師研修会 12月16日(土) 15:00～18:30 県医師会館	医療安全・救急処置に関するもの 宮崎県産婦人科医会常任理事 松 敬文	7 (1.0)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共催 ※宮崎県産婦人科医会 ☎0985-22-5118
	母体保護法の趣旨と適切な運用 宮崎県産婦人科医会副会長 嶋本 富博	6 (1.0)	
	生命倫理に関するもの 宮崎県産婦人科医会副会長 肥後 貴史	2 (1.0)	
第75回宮崎整形外 科懇話会 12月16日(土) 18:00～19:00 県医師会館 参加費：1,000円	日常診療に紛れ込む上肢先天異常あれこれ 大阪発達総合療育センター 南大阪小児リハビリテーション病院長 川端 秀彦	61 (1.0)	◇主催 宮崎整形外科懇話会 ◇共催 宮崎県整形外科医会 大正富山医薬品(株) (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科 ☎0985-85-0986

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
平成29年度宮崎県感染症危機管理研修会【TV会議】 12月21日(木) 19:00～21:00 県医師会館【TV会議場:都城, 延岡, 日向, 児湯, 西都, 南那珂, 西諸】	【専門医共通講習－②感染対策(必修)】 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について(仮) 国立感染症研究所ウイルス第1部長 西條 政幸	8 (1.0) 11 (0.5) 12 (0.5)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共催 宮崎県 宮崎県獣医師会 (連絡先) 宮崎県健康増進課感染症対策室 ☎0985-44-2620
平成29年度高次脳機能障がい講演会【TV会議】 1月15日(月) 19:00～21:00 県医師会館【TV会議場:都城, 延岡, 日向, 児湯, 西都, 南那珂, 西諸, 西臼杵】	高次脳機能障害の臨床: 社会的行動障害を中心に 京都大学医学研究科脳病態生理学講座教授 村井 俊哉	9 (0.5) 29 (0.5) 32 (0.5) 78 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
第53回宮崎県北地区整形外科医会講演会－県北地区医師・職員向け保険診療・自賠責研修会－ 1月19日(金) 19:15～21:15 延岡市医師会病院	保険請求の基本と医療倫理 宮崎市立田野病院 コミュニティ・メディカルセンター 病院准教授 渡邊 信二	2 (0.5) 6 (0.5)	◇主催 宮崎県整形外科医会 ◇共催 宮崎県北地区整形外科医会 延岡医学会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
	交通事故診療と医療安全 －Q&Aで学ぶ対応の基本と基礎知識－ ふくだ整形外科院長 福田 健二	7 (0.5) 9 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
宮崎県医師会産業 医研修会 1月20日(土) 14:30～18:30 県医師会館	産業医としての多様な労働者への配慮のあり方 東京大学特任研究員 三宅 琢	4 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	基礎研修の後期研修会：2単位	7 (0.5)	
	生涯研修の専門研修会：2単位	9 (0.5)	
		11 (0.5)	
	職業がんの歴史 産業医科大学産業保健部 安全衛生マネジメント学教授 熊谷 信二	0 (0.5)	
	基礎研修の後期研修会：2単位 生涯研修の専門研修会：2単位	1 (0.5) 9 (0.5) 82 (0.5)	
第81回宮崎大学眼 科研究会 1月20日(土) 15:00～19:00 宮崎観光ホテル 参加費：2,000円	黄斑疾患の外科治療 富山大学医学薬学研究部眼科学講座教授 林 篤志	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎大学医学部眼科学教室 ☎0985-85-2806
	加齢黄斑変性診療～その先へ 東京女子医科大学眼科学教室教授 飯田 知弘	36 (1.0)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
西都市西児湯医師 会学術講演会 1月24日(水) 19:00～21:00 ウエディングパレ ス敷島	病院がなくなっても幸せに暮らせる夕張市民の秘密 南日本ヘルスリサーチラボ代表 鹿児島県参与(地域創生担当) 森田 洋之	13 (1.0)	◇主催 ※西都市西児湯医師会 ☎0983-43-1687 ◇共催 西都市西児湯内科医会 ◇後援 西都市北地区地域包括支援センター 西都市南地区地域包括支援センター
宮崎JAKセミナー 1月24日(水) 19:45～20:45 宮崎観光ホテル	関節エコーによるリウマチ診療の最適化 千葉大学附属病院アレルギー膠原病内科講師 池田 啓	61 (1.0)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※武田薬品工業(株) ☎0985-24-6763 ファイザー(株)
宮崎県医師会産業 医研修会 1月25日(木) 19:00～21:00 県医師会館	この一年間の産業保健の動向 ー厚生労働省・報道発表資料と通達からー 産業保健相談員 西部労働衛生コンサルタント事務所 矢崎 武 生涯研修の更新研修会: 2単位	3 (0.5) 7 (0.5) 8 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
平成29年度特定健 康診査従事者研修 会【TV会議】 1月26日(金) 19:00～20:30 県医師会館【TV会 議場:都城, 延岡, 日向, 児湯, 西都, 南那珂, 西諸, 西 臼杵】	重症化した糖尿病症例からの教訓 ー特定保健指導で私たちができることー 宮崎県立宮崎病院内科医長 東 真弓	11 (0.5) 76 (0.5) 82 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
西臼杵郡医師会学 術講演会 2月2日(金) 19:00～20:00 ホテル高千穂	最新・最適な糖尿病診療を目指して 宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野助教 上野 浩晶	76 (0.5) 82 (0.5)	◇主催 ※西臼杵郡医師会 ☎0982-73-2010 ◇共催 延岡市西臼杵郡薬剤師会
宮崎県医師会産業 医研修会 2月6日(火) 19:00～21:00 延岡市医師会病院	この一年間の産業保健の動向 －厚生労働省・報道発表資料と通達から－ 産業保健相談員 西部労働衛生コンサルタント事務所 矢崎 武 生涯研修の更新研修会：2単位	3 (0.5) 7 (0.5) 8 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎県医師会産業 医研修会 2月16日(金) 19:00～21:00 県医師会館	注意すべき精神障害の鑑別診断(Ⅱ) 産業保健相談員・西都病院 植田 勇人 生涯研修の専門研修会：2単位	1 (2.0)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎県医師会産業 医研修会 2月20日(火) 19:00～21:00 都城市北諸県郡医 師会館	この一年間の産業保健の動向 －厚生労働省・報道発表資料と通達から－ 産業保健相談員 西部労働衛生コンサルタント事務所 矢崎 武 生涯研修の更新研修会：2単位	3 (0.5) 7 (0.5) 8 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会

診療メモ



免疫抑制・化学療法を行うすべての患者は HBV感染のスクリーニングが必要である ～ B型肝炎ウイルス再活性化を未然に防ぐ～

宮崎医療センター病院副院長(兼)

消化器・肝臓病センター長 宇 都 浩 文

【Recommendation】

- ・ HBV再活性化のリスクを有する免疫抑制・化学療法を行うすべての患者に、治療前にHBV感染をスクリーニングする。
- ・ HBV感染のスクリーニングは、HBs抗原検査、HBc抗体およびHBs抗体検査、HBV DNA定量検査を感度の高い測定法で系統的に実施する。

【はじめに】

上記は日本肝臓学会から出されたB型肝炎治療ガイドラインの一部を抜粋したものです。HBV再活性化は、HBVキャリアからの再活性化と既往感染者(HBs抗原陰性で、HBc抗体陽性かつ/またはHBs抗体陽性)からの再活性化に分類されます。また、既往感染者からの再活性化による肝炎はde novo (デノボ) B型肝炎と言われます。免疫抑制・化学療法を行うすべての患者におけるB型肝炎ウイルス再活性化を未然に防ぐために、本稿で簡単に説明させていただきます。「B型肝炎治療ガイドライン(日本肝臓学会)」と「インフォームドコンセントのための図説シリーズ：肝炎ウイルス－B型・C型(医薬ジャーナル社、P54-59)」を参考にしています。

【HBV関連血清マーカーとHBV感染】

HBVに感染しているか(感染したことがあるか)は血液検査で調べます。HBs抗原はB型肝炎ウイルス(Hepatitis B virus; HBV)に感染し

ているかどうかを判断する簡便で感度の高い血清マーカーで、HBs抗原が陰性であれば、現在HBVに感染していないと判断されます。HBs抗原陽性者がHBVキャリアで、HBs抗原陰性者はその時点ではHBVキャリアではないと判断されます。しかし、HBs抗原が陰性でもHBc抗体陽性かつ/またはHBs抗体陽性であればHBVの遺伝子(HBV DNA)が血液中や肝組織中に検出されることがあります。すなわち、HBs抗原陰性でHBc抗体陽性かつ/またはHBs抗体陽性(HBc抗体とHBs抗体の両方、もしくはどちらか一方陽性)であれば、既往感染者となりますが、体内にウイルスがわずかに残存している可能性があります。なお、HBs抗原、HBc抗体、HBs抗体の3つがすべて陰性であれば、HBVの感染は既往も含めて否定されます。

【de novo (デノボ) B型肝炎】

HBVキャリア(HBs抗原陽性)で免疫抑制剤や抗がん剤を使用した後に、HBVの再活性化により重症肝炎を発症することが知られています。一方、HBV既往感染者(HBs抗原陰性で、HBc抗体陽性かつ/またはHBs抗体陽性；過去にHBVに感染し治癒したと思われる者)も、実際はHBVの遺伝子が肝臓内に残っており、潜在性HBV感染者と考えられます。このような潜在性HBV感染者において、免疫抑制剤や抗がん剤使用時もしくは使用後にHBVが再活性化してB型肝炎を発症することがあり、このような肝炎をデノボB型肝炎と呼びます。デノボ

とはラテン語で「再び」という意味です。

【HBV再活性化のリスク】

HBV既往感染者よりもHBs抗原陽性者の方がHBV再活性化のリスクは高くなります。また、悪性リンパ腫などに対してリツキシマブ(リツキサン®)とステロイドを使用した例や造血幹細胞移植例は再活性化のリスクが高いと言われています。関節リウマチやクローン病で使用される抗腫瘍壊死因子製剤のインフリキシマブ(レミケード®)などでもHBV再活性化の報告があります。また、添付文書上B型肝炎ウイルス再活性化について注意喚起のある薬剤は多数あり、詳細は日本肝臓学会から出されたB型肝炎治療ガイドライン(PDFファイルの右下数字129以降)に記載されています。なお、HBV既往感染者に少量のステロイドなどを短期間使用する場合は、HBV再活性化のリスクはほとんどないと考えられますが、HBV再活性化をきたす可能性のある薬剤の量や期間は明確になっていません。

【デノボB型肝炎の経過】

HBs抗原陰性でHBc抗体陽性かつ/またはHBs抗体陽性者が免疫抑制剤や抗がん剤使用によりB型肝炎が重症化する場合は、HBV DNAが先行して増加し、HBs抗原が陽性化後に肝炎が発症します。多くは免疫抑制剤や抗がん剤治療終了後に発症します。海外からの報告ではHBs抗原陰性例からHBVが再活性化する場合は、化学療法終了後から肝炎発症までに12～40週(中央値33.5週)、HBV DNA陽性化から肝炎発症までに12～28週(中央値18.5週)を要しています。

【デノボB型肝炎の予後】

急性肝炎の中で、急激に高度の肝機能障害(プロトロンビン時間が40%以下)と意識障害(肝性脳症Ⅱ度以上)が出現する場合は劇症肝炎と呼ばれます。デノボB型肝炎では、通常のB型急性肝炎と比べて劇症肝炎へ移行する頻度が高く、劇症化した場合の死亡率も高いことが報告されています。

【デノボB型肝炎の予防と治療】

免疫抑制剤や抗がん剤を用いた治療時には、HBVキャリア(HBs抗原陽性者)か既往感染者かを血液検査で調べます。HBVキャリアに免疫抑制剤や抗がん剤を投与する場合には、肝臓専門医と相談して抗ウイルス薬(核酸アナログ)による治療が推奨されています。既往感染者(HBs抗原陰性でHBc抗体陽性かつ/またはHBs抗体陽性者)に免疫抑制剤や抗がん剤を投与する場合は、経時的にHBV DNAをモニタリングします。HBV DNA (PCR法)は1～3か月毎に測定し、HBV DNAが20IU/ml (1.3LogIU/ml)以上となった時点で、抗ウイルス薬を投与し、肝炎を予防する必要があります。一方、既往感染者でHBV DNAが20IU/ml (1.3LogIU/ml)未満であれば、HBV DNAが陽性であっても、経過観察となります。B型肝炎治療ガイドラインにわかりやすい図[日本肝臓学会ホームページ⇒ガイドライン診療情報⇒B型肝炎治療ガイドライン⇒肝炎治療ガイドライン(第3版)2017年8月⇒右下の数字が78のページ]が掲載されていますので、ご覧下さい。ガイドラインの図などは順次更新されていますので、ご注意ください。

【おわりに】

デノボB型肝炎は頻度が少ない病気ですが、免疫抑制剤や抗がん剤を使用するすべての診療科で起こりうる疾患であり、発症後の予後が不良であることから、発症予防が極めて重要であることをご理解ください。

宮大医学部学生のページ



FMIG宮崎

宮崎大学医学部医学科2年 ^{ふる}古 ^{たに}谷 ^{くう}空 ^や也

1. FMIG宮崎とは

FMIG宮崎とは、Family Medicine Interest Group in宮崎の略称で、家庭医療・総合診療を学ぶための学習系サークルです。現在の医学教育の中では家庭医療について学ぶ機会はあまりありません。そういった中で、地域に根ざした医療を行うために家庭医療について学びたいと思う学生が、地域医療・総合診療医学講座の吉村教授やスタッフの方々と共に立ち上げたのがFMIG宮崎です。

現在、医学科の1～6年生と看護科の1～3年生の、計56名のメンバーが所属しており、そのうち15名が幹部として中心的に活動しています。勉強会や実習など様々な活動を通して、学生が主体となり家庭医療・総合診療を学んでおります。

2. 活動内容

平成28年4月1日から今日に至るまでの、活動をいくつか紹介したいと思います。

毎週水曜日の昼休みに「Lunch on Seminar」という勉強会を行っています。各々が勉強した内容を自由に発表する場であり、テーマは病気についてのことや、実習で体験したことなど、多岐にわたります。参加者は新しい知識を得ることがで

き、発表者は伝えたい内容を明確に相手に伝える訓練ができます。また、地域医療のさらに専門的な内容を学びたい学生のために、月に1回「地域医療カフェ」や「EBMてらこ屋」などという形で、実際に地域医療で活躍されている、地域医療・総合診療医学講座の医局の先生方による勉強会を企画しています。地域医療・家庭医療のいろはを学生にもわかりやすく教えていただいています。

「むちゃぶり道場」では、講座の先生方が当直されている土日の病院にお邪魔して問診を行ったり、許可をいただいた患者さんの家を訪問し生活背景を感じ取る、などといった体験をさせていただいています。この実習では、4年生以上の上級生と3年生以下の下級生がペアとなり行っています。

地域住民に対する医療教育は、地域医療に根ざす医師にとって必要不可欠な能力です。これを養うために、幼稚園生や小学生、その保護者の方たちなどを対象に、健康教育やAED講習なども行っています。

毎年全国各地で行われるプライマリ・ケア学会にも参加しており、昨年は浅草、今年は高松に行ってきました。学会を通してたくさんのことを学ぶと同時に、同じ志を持つ全国の仲間や、研修医、専

攻医などの先輩方との交流によって、将来の自分の医師像を想像することができます。

また、今年の6月には、第4回九州山口家庭医療・総合診療セミナーを延岡で開催しました。九州や全国の医学生とセミナーを通して交流でき、新たな仲間づくりの場として大いに盛り上がりました。

他にも様々な活動をしています。文字数の都合上ここでは割愛させていただきます。これらの活動を通して、医学を学ぶことに対するモチベーションの維持や、新しい知識の獲得、将来の家庭医・総合診療医の育成などにつなげています。

3. 最後に

これからの目標としましては、まずこれまでよりもさらに活動の幅を広げていき、家庭医療・地域医療についてより深く学んでいきたいと思っています。

また、宮崎県内各地でのフィールドワークなどを行って、医療の現状を含めた、宮崎県のことについてもより知っていきたいと思います。FMIG宮崎はまだ発足して2年と浅く、サークルの運営などについて課題となる点が多々あります。発足当時のメンバーもだんだんと卒業していくため、私を含め、後輩がその運営のノウハウをしっかりと学んでいかなければならないと思っています。地域医療や家庭医療といった分野は新しく、まだまだわからないことだらけですが、それらを盛り上げていくためにも、最終的に、全国や宮崎に家庭医療従事者を増やすことにつながる活動をしていきたいと思っています。これからも、様々な活動をしていきたいと思っていますので、今後ともFMIG宮崎をよろしくお願いいたします。

宮崎県医師会メーリングリストのご案内

宮崎県医師会では「MMA通信」と「会員交流用メーリングリスト」の2本立てでのメーリングリストの運用をしています。

◆MMA通信

目的：県医師会から会員への情報提供（各種通知文書、研修会の案内等）

対象：会員本人、医療機関代表のアドレスなど

◆会員交流用メーリングリスト

目的：会員同士の意見交換、会員からの情報提供

対象：会員本人のみ

災害が発生した場合、情報の収集および発信手段は複数確保することが必要です。まだ登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

お問い合わせ先：宮崎県医師会 学術広報課
TEL 0985-22-5118

平成29年 総目次 (No.809 ~ No.820)

【表紙】

烏帽子の朝	延岡市	日高利昭	1月号
梅芳帯雪花	延岡市	岡村公子	2月号
デッサン2	宮崎市	石川万佐子	3月号
1本桜	宮崎市	西村篤乃	4月号
大地(美瑛)	都城市	山路健	5月号
初夏のバラ	都城市	酒井美絵子	6月号
津久見島	延岡市	長沼弘三郎	7月号
Jazz Messenger	都城市	政所治道・恵子	8月号
心	宮崎市	大迫文子	9月号
晩秋	宮崎市	楠元正輝	10月号
デッサン1	宮崎市	石川万佐子	11月号
無	宮崎市	大迫文子	12月号
	会 長	河野雅行	

【会長のページ】

年頭所感	1月号
看護師確保(医師会立看護学校存続)について	2月号
感染症について	3月号
県内スポーツ事情	4月号
災害と災害医療	5月号
産業と医療	6月号
医師の働き方について	7月号
警察活動と医師会	8月号
医療と介護	9月号
研修医・医師確保について	10月号
レセプト審査改革とIT	11月号
医療類似行為と療養費	12月号

【温故知新】

第30代会長 秦喜八郎先生	3月号
---------------	-----

【日州医談】

女性医師保育支援サービスモデル事業	常任理事	荒木早苗	2月号
社会保障政策は大詰め	常任理事	池井義彦	3月号
「死因究明制度」について	常任理事	立元祐保	4月号
翔け！総合診療専門医	常任理事	金丸吉昌	5月号
災害医療における課題と医師会の役割	常任理事	佐々木幸二	6月号
これからの小児医療を考える	常任理事	高村一志	7月号
子宮頸がん予防事業について思うこと	理 事	嶋本富博	8月号
薬剤耐性(Antimicrobial resistance: AMR)対策	理 事	峰松俊夫	9月号
宮崎県における労災保険の現状	理 事	川野啓一郎	10月号
看護師供給状況と看護学校運営に関する問題	理 事	佐藤信博	11月号
医師国保の財政と将来	理 事	佐々木 究	12月号

【退任教授挨拶】

発達泌尿生殖医学講座小児科学分野	教 授	布井博幸	5月号
------------------	-----	------	-----

【新任教授挨拶】

発達泌尿生殖医学講座小児科学分野	教 授	盛 武 浩	9月号
附属病院 薬剤部	教 授	池 田 龍 二	11月号
発達泌尿生殖医学講座産婦人科学分野	教 授	児 玉 由 紀	12月号
看護学科基礎看護学講座	教 授	澤 田 浩 武	12月号

【挨拶】

年頭所感	日本医師会長	横 倉 義 武	1月号
年頭所感	顧 問	秦 喜 八 郎	1月号
年頭所感	顧 問	稲 倉 正 孝	1月号
年頭所感	宮崎市医師会長	川 名 隆 司	1月号
年頭所感	都城市北諸県郡医師会長	飯 田 正 幸	1月号
年頭所感	延岡市医師会長	吉 田 建 世	1月号
年頭所感	日向市東臼杵郡医師会長	渡 邊 康 久	1月号
年頭所感	児湯医師会長	永 友 和 之	1月号
年頭所感	西都市西児湯医師会長	松 本 英 裕	1月号
年頭所感	南那珂医師会長	島 田 雅 弘	1月号
年頭所感	西諸医師会長	内 村 大 介	1月号
年頭所感	西臼杵郡医師会長	佐 藤 元 二 郎	1月号
年頭所感	宮崎大学医学部医師会長	鮫 島 浩	1月号
年頭所感	内科医会長	小 牧 斎	1月号
年頭所感	小児科医会長	高 山 修 二	1月号
年頭所感	外科医会長	八 尋 克 三	1月号
年頭所感	整形外科医会長	川 野 啓 一 郎	1月号
年頭所感	皮膚科医会長	成 田 博 実	1月号
年頭所感	泌尿器科医会長	中 山 健	1月号
年頭所感	産婦人科医会長	濱 田 政 雄	1月号
年頭所感	眼科医会長	柴 田 博	1月号
年頭所感	耳鼻咽喉科医会長	井 手 稔	1月号
年頭所感	精神科医会長	吉 田 建 世	1月号
年頭所感	放射線科医会長	平 井 俊 範	1月号
年頭所感	東洋医会長	川 越 宏 文	1月号
年頭所感	透析医会長	藤 元 昭 一	1月号
年頭のご挨拶	宮崎県知事	河 野 俊 嗣	1月号
年頭のご挨拶	宮崎大学長	池ノ上 克	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(1区)	武 井 俊 輔	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(2区)	江 藤 拓	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(3区)	古 川 禎 久	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員	松 下 新 平	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員	長 峯 誠	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員	羽 生 田 俊	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員	自 見 はなこ	1月号
年頭のご挨拶	県議会議員	清 山 知 憲	1月号

【随想・随筆】

野育ち	延 岡 市	長 沼 弘三郎	3月号
クリボッチの会 -Do you know what does it mean?-	日 南 市	北 村 和 生	3月号
宮崎県医師会諸先輩の短歌	宮 崎 市	長 嶺 元 久	4月号

「蜜蜂と遠雷」～「ショパン国際ピアノコンクール」

宮 崎 市

菅 沼

龍 夫

10月号

再度、北海道へ孫と旅する

宮 崎 市

菅 田

島 直

10月号

IoTについての考察

宮 崎 市

中 島

知 徳

11月号

【新春随想・俳壇・歌壇・川柳・絵画】

いつの間にか『20』から『26』へ

宮 崎 市

谷 口

二 郎

1月号

更年期と村上春樹

日 向 市

石 渡

正 子

1月号

見果てぬ夢

宮 崎 市

山 村

善 教

1月号

新資本主義時代

延 岡 市

宮 田

純 一

1月号

<追悼>

都 農 町

永 友

淳 司

1月号

卒後50年のにわか健康志向

宮 崎 市

高 崎

眞 弓

1月号

男 四十半ばにして、いざ聖地へ

宮 崎 市

山 田

琢 也

1月号

論より証拠

宮 崎 市

清 山

知 憲

1月号

孫の便りにくるめく

都 城 市

安 藤

健 一

1月号

高校生の頃に、やりたかったこと

高 鍋 町

坂 田

師 通

1月号

ブラジル

日 向 市

松 岡

敬 子

1月号

雑感

宮 崎 市

盛 田

修 一

1月号

患者になって

高 鍋 町

坂 田

師 隣

1月号

近況報告

宮 崎 市

楠 元

正 輝

1月号

この世は美しい

延 岡 市

宝 珠

山 弘

1月号

お茶しませんか

宮 崎 市

石 川

恵 美

1月号

ラジコン

宮 崎 市

加 藤

丈 司

1月号

風々居士

宮 崎 市

中 村

政 人

1月号

年男としての新たな思い

宮 崎 市

柴 田

直 哉

2月号

池を作ろう

延 岡 市

塚 本

創 一

2月号

県立宮崎病院前回改築時の思い出

宮 崎 市

立 山

浩 道

2月号

ゆっくりと歩きながら遺す

小 林 市

浅 見

尚 規

2月号

北海道での誓い

小 林 市

堀

英 昭

2月号

大好きな故郷 谷中から上野界限

西 都 市

大 塚

和 子

2月号

趣味はラグビー

日 南 市

山 元

美 智

2月号

車の時代

宮 崎 市

名 越

敏 秀

2月号

念願のエージシュート

都 城 市

教 山

紘 臣

2月号

ブラヴォーバンベルク交響楽団

高 鍋 町

大 森

史 彦

2月号

為せば成る、為さねば成らぬ何事も

延 岡 市

大 重

明 広

2月号

私の趣味探し

宮 崎 市

福 留

真 二

2月号

新専門医制度について思うこと

宮 崎 市

天 野

正 宏

2月号

新春雑感

宮 崎 市

川 畑

紀 彦

2月号

【はまゆう随筆・短歌・俳句】

偶然と必然

宮 崎 市

北 折

健 次

7月号

父を超える

宮 崎 市

谷 口

二 郎

7月号

生かされ、活かされている

宮 崎 市

脇 坂

信 一

7月号

重心今昔

日 南 市

山 口

和 正

7月号

院長が何を考えているかわかりません

宮 崎 市

田 畑

直 人

7月号

故 外山 方圀先生のこと

宮 崎 市

平 部

久 彬

7月号

引退会見で思うこと

都 城 市

野 田

俊 一

7月号

ハレとケ

宮 崎 市

石 坂

裕 司

7月号

夢多き人生

延 岡 市

宝 珠

山 弘

7月号

現代増減事情	宮 崎 市	森	憲 正	7月号
”運玉” v s ”在らぬダイヤ”	日 南 市	北 村	應 旺	8月号
バラの庭よ永遠に～パート1	日 南 市	北 村	恵 子	8月号
私の趣味	小 林 市	桑 原	淑 子	8月号
お金持ちになるには	延 岡 市	木 下	義 美	8月号
風来坊的医者人生	宮 崎 市	大 塚	伸 昭	8月号
人文系学問の効用	宮 崎 市	大 西	雄 二	8月号
ツタンカーメンの豆	宮 崎 市	古 賀	繁 喜	8月号
笑うことが好きです－2	串 間 市	野 田	隆	8月号
サラブレッドはアスリート	宮 崎 市	獅子目	賢一郎	8月号
趣味は昆虫写真なのか、綾の散策なのか？	延 岡 市	末 岡	常 昌	8月号
VR(バーチャル・リアリティー)	日 向 市	水 野	智 秀	9月号
介護医療院を司るには総合診療医と Mega clinic が必要である	日 南 市	河 野	清 秀	9月号
気球に乗って	日 向 市	渡 邊	命 平	9月号
傘寿	日 向 市	堀之内	和 代	9月号
スプートニク1号	宮 崎 市	甲 斐	佐	9月号
小さな来訪者	宮 崎 市	松 浦	宏 司	9月号
津波避難訓練で判った課題	宮 崎 市	日 高	四 郎	9月号
広島にて思う事	延 岡 市	前 田	資 雄	9月号
たんぽぽは国際色豊か	宮 崎 市	山 崎	俊 輔	9月号
陰影礼讃	延 岡 市	長 沼	弘三郎	9月号
初アユ釣り考	宮 崎 市	弓 削	達 雄	9月号

【寄稿】

あはき療養費も受領委任(代理請求)可能に？同意書作成の知識と理解の重要性

宮 崎 市 尾 田 朋 樹 8月号

【エコー・リレー】

数字	宮 崎 市	皆 川	明 大	1月号
トライアスロン	延 岡 市	今 田	真 一	1月号
自転車通勤の妙	延 岡 市	松 尾	崇	2月号
コウノトリ	宮 崎 市	西 川	清	2月号
ホームページ「アニメで学ぶ子供のための医学」の紹介	西 都 市	長 田	直 人	3月号
スポーツ観戦	宮 崎 市	福 留	慶 一	3月号
カメラのプレッシャー	宮 崎 市	野 間	健 之	4月号
フルマラソンへ向けて	日 南 市	飛 松	正 樹	4月号
通勤手段について	都 城 市	西	勇 一	5月号
蘇るあの日の記憶	宮 崎 市	日 高	利 彦	5月号
ポケモン探し	川 南 町	山 中	聡	6月号
「執事」の精神	宮 崎 市	高 城	一 郎	6月号
路地歩き	宮 崎 市	鶴 田	和 仁	7月号
豊かな土地	宮 崎 市	熊 原	恵一郎	7月号
散歩	延 岡 市	成 田	理 恵	8月号
夏の日思い出	宮 崎 市	川 野	貴 久	8月号
西米良の地で	西米良村	片 山	陽 平	9月号
友	宮 崎 市	土 居	芳 枝	9月号

実体顕微鏡のススメ？	国 富 町	星 子 新 理	10月号
糖質制限を始めよう	宮 崎 市	牧 原 真 治	10月号
癒し	延 岡 市	赤 須 玄	11月号
やっぱり紙が好き！	宮 崎 市	松 浦 宏 司	11月号
あの～、・・・	小 林 市	堀 英 昭	12月号
スキューバダイビング事始め	宮 崎 市	名 越 敏 郎	12月号

【叙位・叙勲】

平成 28 年 1 月～ 12 月までの叙勲及び・表彰・祝賀受賞会員			1 月号
瑞宝中綬章	宮崎市郡医師会	豊 田 清 一	1 月号
瑞宝双光章	宮崎市郡医師会	竹 尾 康 男	1 月号
旭日双光章	宮崎市郡医師会	早稲田 芳 男	1 月号

【表彰・祝賀】

学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰

	都城市北諸県郡医師会	田 中 昭 彦	1 月号
公衆衛生事業功勞により県知事表彰	宮崎市郡医師会	木佐貫 健 一	1 月号
公衆衛生事業功勞により県知事表彰	都城市北諸県郡医師会	坂 口 健次郎	1 月号
公衆衛生事業功勞により県知事表彰	延岡市医師会	牧 野 剛 緒	1 月号
公衆衛生事業功勞により県知事表彰	南那珂医師会	山 元 敏 嗣	1 月号
公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	井之上 睦 美	3 月号
公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰	延岡市医師会	黒 瀬 明 治	3 月号
公衆衛生事業功勞により日本公衆衛生協会会長表彰			

	延岡市医師会	小 池 祐 一	3 月号
医療功勞により県知事表彰	宮崎市郡医師会	橋 口 兼 達	8 月号
医療功勞により県知事表彰	都城市北諸県郡医師会	大 窪 利 隆	8 月号
医療功勞により県知事表彰	延岡市医師会	岡 村 公 子	8 月号
医療功勞により県知事表彰	日向市東白杵郡医師会	古 賀 正 広	8 月号
医療功勞により県知事表彰	児湯医師会	大 森 史 彦	8 月号
医療功勞により県知事表彰	西都市西児湯医師会	黒 木 重 晶	8 月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	宮崎市郡医師会	杉 田 幸 雄	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	宮崎市郡医師会	藤 木 浩	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	宮崎市郡医師会	山 脇 忍	10月号

	都城市北諸県郡医師会	濱 田 義 臣	10月号
--	------------	---------	------

学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	都城市北諸県郡医師会	村 上 健 志	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	延岡市医師会	赤 須 巖	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	延岡市医師会	岡 村 博 道	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	延岡市医師会	富 田 精一郎	10月号

	日向市東白杵郡医師会	渡 邊 康 久	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	南那珂医師会	津 曲 俊 郎	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	西諸医師会	志戸本 宗 徳	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	西諸医師会	長 井 章	10月号
学校保健及び学校安全に関する県教育長表彰	西諸医師会	堀 英 晴	10月号

【あなたできますか？】

【宮崎県感染症発生動向】

各 号
各 号

【メディアの目】

ドラマで伝える地域の魅力	N H K 宮崎放送局	放送部長	濃 明 修	2月号
日本一早い！山開き	朝日新聞宮崎総局	総局長	今 井 清 満	3月号
パチンコ依存症に医師の目を	共同通信社	宮崎支局長	池 谷 孝 司	4月号
高齢者の自動車運転の適否も AI が判断				
	日本経済新聞社	宮崎支局長	鈴 木 豊 之	5月号
岐路に立つ部活	時事通信社	宮崎支局長	牧 野 達 夫	6月号
宮崎県民歌を歌おう	読売新聞	宮崎支局長	長 田 泰 弘	7月号
” ネットの海 ” に溺れぬように	西日本新聞社	宮崎総局長	中 山 憲 康	8月号
老いは先達に聞くことから	毎日新聞	宮崎支局長	宝 満 志 郎	9月号
あの日あの頃テレビ時代の昭和がおもしろい				
	UMK テレビ宮崎	報道部長	坂 元 秀 光	10月号
働き方改革	宮崎日日新聞社	報道部長	杉 尾 守	11月号
衆議院選挙を終えて	MRT 宮崎放送	放送部長	馬 登 貴	12月号

【郡市医師会だより】

都城市北諸県郡医師会(メイン)	理 事	宇 宿 修 隆	2月号
延岡市医師会(メイン)	理 事	榎 本 雄 介	3月号
日向市東臼杵郡医師会(メイン)	会 長	渡 邊 康 久	4月号
児湯医師会(メイン)	理 事	北 村 洋	5月号
西都市西児湯医師会(メイン)	理 事	水 田 能 久	6月号
南那珂医師会(メイン)	会 長	島 田 雅 弘	7月号
西諸医師会(メイン)	理 事	花 田 武 浩	8月号
西臼杵郡医師会(メイン)	会 長	佐 藤 元二郎	9月号
宮崎大学医学部医師会(メイン)	会 長	鯨 島 浩	10月号
宮崎市郡医師会(メイン)	理 事	玉 置 昇	11月号
都城市北諸県郡医師会(メイン)	理 事	永 吉 義 治	12月号

【国公立病院だより】

宮崎市総合発達支援センターおおぞら	診療所長	重黒木 真由美	3月号
宮崎県済生会日向病院	病 院 長	林 克 裕	5月号
小林市立病院	病 院 長	徳 田 浩 喜	7月号
国民健康保険諸塚診療所	所 長	桐 村 泰 廣	9月号
県立宮崎病院	病 院 長	菊 池 郁 夫	11月号

【宮崎大学医学部だより】

病理学講座 腫瘍・再生病態学分野	助 教	川 口 真紀子	2月号
臨床神経科学講座 脳神経外科学分野	医 局 長	横 上 聖 貴	3月号
感覚運動医学講座 整形外科分野	医 局 長	濱 田 浩 朗	4月号
外科学講座 心臓血管外科学分野 呼吸器・乳腺外科学分野			
	講 師	中 村 栄 作	5月号
	准 教 授	綾 部 貴 典	
	助 教	土 屋 和 代	
外科学講座 肝胆脾外科学分野 消化管・内分泌・小児外科学分野 形成外科学分野			
	医 局 長	旭 吉 雅 秀	6月号
	講 師	池 田 拓 人	
	講 師	守 永 圭 吾	
感覚運動医学講座 眼科学分野	医 局 長	川 原 亮 輝	7月号
総合周産期母子医療センター	病棟医長	紀 愛 美	8月号

内科学講座 免疫感染病態学分野	医 局 長	高 城 一 郎	9 月号
患者支援センター(旧地域医療連携センター)	センター長	鈴 木 斎 王	10月号
感覚運動医学講座 顎顔面口腔外科学分野	教 授	山 下 善 弘	11月号
感染症学講座 寄生虫学分野	教 授	丸 山 治 彦	12月号

【専門分科医会だより】

整形外科医会	会 長	川 野 啓一郎	3 月号
精神科医会	会 長	吉 田 建 世	5 月号
眼科医会	会 長	柴 田 博	6 月号
小児科医会	会 長	高 山 修 二	9 月号
泌尿器科医会	会 長	中 山 健	10月号
産婦人科医会	会 長	濱 田 政 雄	11月号
耳鼻咽喉科医会	会 長	井 手 稔	12月号

【部会だより】

産業医部会	常任理事	佐々木 幸 二	4 月号
労災部会	部 会 長	田 中 俊 正	7 月号

【報告(宮崎県医師会各種委員会)】

介護保険委員会			1 月号
地域医療構想委員会			1 月号
医学賞選考委員会			2 月号
医学会編集委員会			4 月号
宮崎県医師会医学会役員会			8 月号
学術生涯教育委員会			9 月号
公衆衛生・感染症 / 予防接種合同委員会			9 月号
勤務医委員会			10月号
健康教育委員会			10月号
医学会誌編集委員会			10月号
健康スポーツ医学委員会			11月号
介護保険委員会			12月号

【報告(諸会議)】

九州医師会連合会第1回各種協議会			1 月号
九州医師会連合会第360回常任委員会			1 月号
第7回宮崎の医療を考える会(県医広報委員会と若手記者との勉強会)			
～宮崎県の救急医療体制の現状と課題～			2 月号
九州各県医師会学校保健担当理事者会			2 月号
平成28年度九州学校検診協議会第2回専門委員会			2 月号
第2回各郡市医師会長協議会			3 月号
九州医師会連合会第112回臨時委員総会			3 月号
九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会			3 月号
第116回九州医師会連合会総会・医学会			3 月号
九州医師会連合会第361回常任委員会			3 月号
九州医師会連合会救急・災害医療担当理事連絡協議会第1回九州ブロック災害医療研修会			3 月号
平成28年度全国医師会勤務医部会連絡協議会			3 月号
平成28年度日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック会議			3 月号
宮崎県医師会創立128周年記念医学会			4 月号
九州各県医師会医療事故調査制度担当理事連絡協議会			4 月号

九州医師会連合会平成 28 年度第 2 回各種協議会	4 月号
九州医師会連合会第 362 回常任委員会	5 月号
宮崎県臨床研修医説明会・講演会 / 新研修医祝賀会	
～ All Miyazaki 研修医スタートアップセミナー&ウェルカムパーティ～	5 月号
平成 28 年度都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会	5 月号
平成 28 年度女性医師支援事業連絡協議会	5 月号
第 18 回都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会	6 月号
平成 29 年度「All Miyazaki 研修医スタートアップセミナー & ウェルカムパーティ」開催報告	6 月号
平成 29 年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会	7 月号
九州医師会連合会第 363 回常任委員会	7 月号
第 166 回宮崎県医師会定例代議員会(概要)	8 月号
平成 29 年度第 74 回宮崎県医師会総会	8 月号
九州医師会連合会第 364 回常任委員会	8 月号
九州医連連絡会第 25 回常任執行委員会	8 月号
九州医師会連合会第 365 回常任委員会	9 月号
地域医療構想調整会議の進め方に関する協議会	10月号
九州医師会連合会第 366 回常任委員会	10月号
第 113 回九州医師会連合会定例委員総会	10月号
平成 29 年度九州学校検診協議会幹事会	10月号
九州各県医師会学校保健担当理事者会(日本医師会学校保健担当理事との懇談会)	10月号
平成 29 年度九州学校検診協議会第 1 回専門委員会	10月号
生活習慣病(糖尿病・COPD 等)担当理事連絡協議会	10月号
九州医師会連合会第 367 回常任委員会	12月号
全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会第 67 回定例総会・平成 29 年度第 1 回運営委員会	12月号
第 39 回産業保健活動推進全国会議	12月号
都道府県医師会小児在宅ケア担当理事連絡協議会	12月号
【報告(その他)】	
第 18 回宮崎県医師会医家芸術展	10月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	12月号
道路交通法改正に伴う認知症診断に関する感謝状の贈呈	12月号
【宮崎県医師国保組合だより】	
第 21 回歩こう会について	2 月号
平成 29 年度の保険料賦課について	4 月号
国民健康保険法第 116 条にかかる届出のお願い	4 月号
第 21 回歩こう会	宮 崎 市 西 村 篤 乃 5 月号
平成 28 年度宮崎県医師国民健康保険組合第 116 回通常組合会	5 月号
平成 29 年度宮崎県医師国民健康保険組合第 117 回通常組合会	9 月号
保険事業のご案内	10 ～ 12月号
【追悼のことば】	
岩 田 達 男 先生	南那珂医師会 2 月号
永 田 利 安 先生	都城市北諸県郡医師会 2 月号
二 木 秀 人 先生	日向市東臼杵郡医師会 3 月号
清 永 勉 先生	延岡市医師会 4 月号
松 岡 弘 先生	日向市東臼杵郡医師会 5 月号

福 田 實 先生	宮崎市郡医師会	6月号
島 田 鳴 海 先生	南那珂医師会	6月号
江 崎 豊 先生	延岡市医師会	7月号
前 田 昭 久 先生	西諸医師会	7月号

【ニューメンバー】(新入会員・新規開業会員)

星 子 新 理 (ほしこ しんり)	国 富 町	2月号
河 野 郁 子 (かわの いくこ)	都 城 市	2月号
木 村 頼 雄 (きむら よりお)	串 間 市	7月号
長 嶺 和 弘 (ながみね かずひろ)	宮 崎 市	8月号
能 勢 直 弘 (のせ なおひろ)	延 岡 市	10月号
赤 須 晃 治 (あかす こうじ)	延 岡 市	10月号
濱 崎 紀 行 (はまさき のりゆき)	高千穂町	11月号
古 川 誠 志 (ふるかわ せいし)	宮 崎 市	12月号

【診療メモ】

DPAT(Disaster Psychiatric Assistance Team 災害派遣精神医療チーム)について	県立宮崎病院精神医療センター	河 野 次 郎	1月号
弁膜症に対する心臓カテーテル治療の進歩 －経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI/TAVR)を中心に－	宮崎市郡医師会病院心臓病センター循環器内科	古 堅 真 徳 柴 田 剛	2月号
県立宮崎病院の総合診療科について	県立宮崎病院	石 井 義 洋	3月号
救急救命士の活動について	宮崎市消防局	濱 畑 貴 晃	4月号
経皮感作について	にしだ皮膚科	西 田 隆 昭	5月号
AMR(薬剤耐性)について	県立宮崎病院	山 中 篤 志	6月号
胆膵疾患に対する超音波内視鏡診断・治療：現状と新展開	宮崎大学医学部消化器内科学講座	河 上 洋	7月号
学校医が行う運動器検診	たかむら小児クリニック	高 村 一 志	8月号
快適職場はあなたをまもる・職場を創る - 最近のメンタルヘルス動向に関して -	宮崎大学名誉教授 / 宮崎産業保健総合支援センター相談員	鶴 紀 子	9月号
人工聴覚器医療の現況と宮崎大学医学部附属病院難聴支援センターの役割	宮崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室	東 野 哲 也	10月号
古くて新しい梅毒の話	きくち皮膚科泌尿器科クリニック	菊 池 英 維	11月号
免疫抑制・化学療法を行うすべての患者はHBV 感染のスクリーニングが必要である ～B型肝炎ウイルス再活性化を未然に防ぐ～	宮崎医療センター病院 消化器・肝臓病センター	宇 都 浩 文	12月号

【私の本】

宮崎産業保健総合支援センター仕事集	宮 崎 市	大 西 雄 二	9月号
歌集 百通り	宮 崎 市	長 嶺 元 久	12月号

【宮崎グルメ探訪】

福鯔	宮 崎 市	稲 倉 琢 也	8月号
勝しん	宮 崎 市	尾 上 耕 治	9月号
バー&レストラン直樹	宮 崎 市	前 野 正 和	11月号

【告知】

第166回宮崎県医師会定例代議員会開催	6月号
---------------------	-----

【宮大医学部学生のページ】

【宮崎大学学園祭】第12回清花祭～宮大爛漫～	1月号
------------------------	-----

宮崎の医療を考える会(若手記者との勉強会)～宮崎県の救急医療体制の現状と課題～

EMP とは	医学科 5 年	佐 井 佳 世	2 月号
カリキュラム変更について	医学科 5 年	叶 原 亜 紅	4 月号
議員インターンシップについて	医学科 4 年	二 見 旬 祐	5 月号
カリフォルニア大学アーバイン校留学記	医学科 4 年	泉 摩 依	6 月号
第 14 宮崎大学医学部音楽祭	医学科 6 年	石 田 奈緒子	7 月号
第 60 回全国医学生ゼミナール in 宮崎開催報告	医学科 4 年	新 居 聖 佳	8 月号
～ 24 年ぶり宮崎でこれからの医療を考える～			
医学科 5 学年 / 第 60 回全国医学生ゼミナール in 宮崎現地実行委員長		井 上 奈津子	9 月号
〔宮崎大学学園祭〕第 13 回清花祭～清花爛漫～			10月号
〔宮崎大学学園祭〕第 13 回清花祭～清花療原～			11月号
FMIG 宮崎	医学科 2 年	古 谷 空 也	12月号

【その他】

宮崎県国民健康保険診療報酬審査委員名簿	2 月号
宮崎県社会保険診療報酬支払基金審査委員名簿(医科)	10月号
平成 29 年総目次	12月号

【案内】

「認知症の人と家族の会」のご案内	世話人代表 浦 部 晃 一	5 月号
平成 29 年度第 74 回宮崎県医師会総会		5, 6 月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会		8, 9 月号

【お知らせ】

日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています	各 号
郡市医師会への送付文書	各 号
平成 28 年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い	1 月号
麻薬譲受証に記載すべき譲受人氏名及び押印する麻薬専用印について	1 月号
宮崎県医師会医療情報コーナー	1～4, 6～8, 11, 12月号
宮崎県医療勤務環境改善支援センター	1～7, 9～12月号
宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ	2～4, 6～8, 10～12月号
医療事故調査制度相談窓口	2～6, 8, 12月号
宮崎県医師会メーリングリストのご案内	3, 5, 6, 8, 10～12月号
医師年金ご加入のすすめ	4 月号
医師資格証を持ちましょう	4, 10, 12月号
宮崎県医師会・医師国保組合・医師協同組合事務局職員配置	5 月号
第 18 回宮崎県医師会医家芸術展作品募集!	5 月号
「はまゆう随筆」原稿募集	5, 6 月号
第 18 回宮崎県医師会医家芸術展	6～8 月号
クールビズについて	5～10月号
平成 29 年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い	7～9, 12月号
第 1 回生命を見つめるフォト&エッセー	8, 9 月号
宮崎県医療勤務環境改善支援セミナー	8 月号
「新春随想」原稿募集	10, 11月号
第 1 回専門医共通講習会 医療倫理・感染対策	10月号
年末・年始の休館について	12月号

お知らせ

平成29年度日本医師会認定医療秘書養成制度
卒業生求職のお願い

宮崎県医師会では、日本医師会認定医療秘書養成を県内3教育機関に委託しております。日本医師会医療秘書認定試験の合格を目指し、医療事務に必要な知識、最新の情報処理技能などの資格を備えるとともに、医療機関の今日的な使命を自覚し、誠実さと思いやりの心を大事にする人間形成にも力を入れています。

今年度、医療事務職員採用のご予定がございましたら、何卒、県内3教育機関からご採用いただきますようご検討をお願いいたします。

なお、求職に関するお問い合わせ等につきましては、直接各教育機関の担当者までご連絡くださるようお願い申し上げます。

宮崎学園短期大学 (宮崎市)	宮崎医療管理専門学校 (宮崎市)	都城コアカレッジ (都城市)
就職希望者18名 (女18名)	お蔭様をもちまして今年度の卒業生は全て内定が決まりました。ありがとうございました。	就職希望者2名 (女2名)
連絡先：TEL0985-85-0146 宮崎市清武町加納丙1415 担当：田村 広美 武村 順子	連絡先：TEL0985-86-2271 宮崎市田野町甲1556-1 担当：福元 進 鬼束 咲子	連絡先：TEL0986-38-4811 都城市吉尾町77-8 担当：吉原真由美 中山さおり

あなたできますか？（解答）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
b	e	b	d	b, c	a, e	a	c	b	e

医療機関の経営者・管理者の皆様へ

医療勤務環境 改善支援センターを ご利用ください

県下の社会保険労務士と医業経営コンサルタントが県内の医療機関からの医療勤務環境の相談内容に応じて専門的な助言・支援を行います。

医療労務管理相談

- スタッフが長く、安心して働ける職場にしたい!
- 育児・介護中の休み方、働き方は?
- 医師の負担を軽減させたい…

医業経営面

- スタッフのキャリアを磨きたい!
- 補助制度を上手に活用したい。
- 効率良く、経営を安定させたい。

相談
無料



まずは、お電話ください。

宮崎県医療勤務環境改善支援センター

公益社団法人宮崎県医師会内

月曜～金曜 午前10時から午後4時まで

TEL.0985-20-1211

FAX.0985-27-6550

E-mail iryou-kinmukaizen@miyazaki.med.or.jp

お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会学術広報課にお問い合わせください。(TEL 0985-22-5118)

またMMA通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

送付日	文 書 名
10月4日	・法務省共済組合員証の無効について ・「妥結率に係る報告書」に係る周知について
10月5日	・医療事故情報収集等事業「医療安全情報No.130」の提供について ・単回使用医療機器の取扱いの再周知及び医療機器に係る医療安全等の徹底について
10月6日	・学校等欠席者・感染症情報システムにおける過去データスリム化のためのシステム改修の実施について ・弾道ミサイル発射時における広域災害・救急医療情報システム(EMIS)の運用について ・予防接種法施行規則の一部を改正する省令の公布および「定期の予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」の一部改正について ・「病原微生物検出情報」の送付について ・サービス付き高齢者向け住宅における医療・介護サービスとの連携の推進について ・高額介護(予防)サービス費等に関する介護保険法施行令等の一部を改正する政令公布及び関係通知の送付について ・平成29年10月1日以降の平成28年熊本地震で被災した被保険者の利用料の免除に関する取扱いについて ・厚生労働省「平成29年度動物由来感染症対策技術研修会」の開催について ・エボラ出血熱についてのリスクアセスメントの更新とそれに伴う対応の変更について ・「標準的な健診・保健指導のプログラム(案)【平成30年度版】」の公表について
10月10日	・地域医療構想・病床機能報告における回復期機能について ・プエラリア・ミリフィカを原材料に含む「健康食品」の取扱いについて ・柔道整復師による超音波画像診断装置の使用について ・日本准看護師連絡協議会「市民公開講座及び交流会」の開催について(ご案内及び参考資料提供のお願い)
10月11日	・医療法人制度改革に関するセミナー開催について ・医師年金普及推進活動に関するご協力のお願い－医師年金50周年記念普及推進計画について－ ・病院等の勤務環境に関するアンケート調査について ・持分の定めのない医療法人への移行に関する計画の認定制度について(平成29年度税制改正に伴う認定医療法人制度の延長・拡充) ・「医療法等の一部を改正する法律」の一部の施行について(妊婦又は産婦の異常に対応する医療機関の確保等に関する事項)

送付日	文 書 名
10月13日	・弾道ミサイル発射時における広域災害・救急医療情報システム(EMIS)の運用について、及び、北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合における全国瞬時警報システム(Jアラート)による情報伝達について ・女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告書について ・指定居宅サービスに要する費用の額の算定に関する基準の一部を改正する件等について ・「平成28年(2016)医療施設(動態)調査・病院報告の概況」送付について ・ペストに係る注意喚起について ・障害年金の診断書の様式変更及び障害年金制度の周知依頼について ・各がん検診実施機関等登録(指定)について ・再生医療等製品患者登録システムへの参加等について ・相互接続防止コネクタに係る国際規格(ISO (IEC) 80369シリーズ)の導入について ・ベズロトクスマブ(遺伝子組換え)の使用に当たっての留意事項について ・舌下投与用スギ花粉エキスを末錠の使用に当たっての留意事項について ・グレカプレビル水和物/ピブレンタスビル製剤の製造販売後調査及び適正使用への協力をお願いについて ・イヌからヒトへ感染したSFTS症例について ・厚生労働省主催「平成29年度新型インフルエンザの診療と対策に関する研修」の開催について
10月17日	・「かかりつけ医のための適正処方の手引き」の送付について ・国税庁の確定申告における医療費控除の提出資料変更に係るチラシの設置について ・ジカディアカプセル150mgの効能・効果等の変更に伴う留意事項について ・抗PD-1抗体抗悪性腫瘍剤(オプジーボ点滴静注)に係る最適使用推進ガイドライン(胃癌)の策定等に伴う留意事項の一部改正について
10月18日	・専門実践教育訓練給付金の支給の対象となる教育訓練について
10月20日	・「医療から見た地域包括ケアを推進するための参考事例ご推薦のお願い」について ・診療における検査データの活用(医療保険者とかかりつけ医の連携による治療中患者の特定健康診査の推進及び診療情報の提供)について
10月24日	・薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2017の公表について ・平成29年度公益財団法人日本学校保健会特別セミナー「子供の健康とスマホ依存」及び「子供の睡眠と健康2017」講習会の周知について ・単回使用医療機器の取扱いの再周知及び医療機器に係る医療安全等の徹底について ・医療事故情報収集等事業第50回報告書の送付について ・「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 第17回集計報告」の周知について ・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて
10月27日	・ワンヘルスに関する連携シンポジウム－薬剤耐性(AMR)対策－の開催について ・予防接種の間違いの防止について ・共済組合員被扶養者証の亡失についてのお知らせ
10月30日	・使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正等について ・検査料の点数の取扱いについて

あとかき



いつの間にか暑かった夏は終わり、秋の紅葉を楽しむこともなく、いっきに冬となったせいか、このところより寒さを感じます。慌ただしく年末を迎えたような気がします。今年は、考えられないような事件や、戦争があるのではないかと不安な状況などありましたが、いつもの生活をいつも通りに過ごすことがいかに大切かということを感じた一年でもありました。

ところで、今年の流行語大賞に30語ノミネートされていますが、この中に“働き方改革”という言葉が入っています。現在、医師不足ということで、日州医事の広報委員会でも話題となり、“若手記者との勉強会”のテーマとなりました。産婦人科に関しては、全国的には産婦人科医師は、研修制度が開始したと同時に入局者は減少、その後はいったん増加しましたが、その後また減少、ここ数年は何とか少しずつですが増加傾向に傾いています。このように、産婦人科を志す若手医師が増えてきたことは大変嬉しいことです。宮崎県においては、全国と比べると、特に分娩を取扱える産科医師がまだ少ないこと、分娩施設をもつ診療所が減少してきていること、産科の医師の高齢化と10年後は産科の医師数がさらに減少するという現実的な問題があります。“働き方改革”を論ずる前に産婦人科の医師をいかに増やすかという問題に取り組んでいかなければなりません。産婦人科を志す若手医師が増えるように今後よりいっそう様々な取り組みをしていくことになると思われます。

(上山)

* * *

庭に植えた柑橘系の果樹の収穫シーズンです。全部で10種類ほどありますが、ホームセンターや植木市で買った苗が長いもので5年目となりました。今年はかなりの収穫量となったため、昼間の子ども達のおやつとして食べきれずに、晩酌のつまみにもなっています。しかし、ふるさと納税の返礼品のグレープフルーツ酎ハイとは、まったく合いません。それでも油っこいものや塩辛いものより健康にいいでしょうから、せっせと皮をむいています。

(岡本)

* * *

自宅のゴミ出しは私の仕事だ。燃えるゴミ、プラゴミなどは毎回出すのだが、燃えないゴミ、金属などの資源ゴミは仕分けが細かいので疎かになってしまう。先週の日曜日に妻と次男の3人で、たまっていたゴミの仕分けをした。それらのゴミを出した日の夜に、燃えないゴミだと電話で確認していたゴミが、実は粗大ゴミで、たった一つだけ持って行ってもらえなかったことを知った。私の電話での問い合わせがよくなかったのかなあ。残念！

(山崎)

* * *

49歳になりました。有名な敦盛の一節「人間50年……夢幻の如くなり……」を思い出しますが、自分もついに来年、節目の50歳かと思うと信じられない気持ちです。まだ腹も出てないし、スポーツもやれるし、漫画も読むし、自分では心身ともに若いと思っています。外来で、まれに30代に間違われることもあり(眼科受診を勧めるべき?)、老化とは無縁のつもりでしたが、妻からの誕生日プレゼントは加齢臭対策ローションと体臭予防スプレーでした。冷静な妻に感謝です。

(稲倉)

* * *

先日、大学で行われる学園祭の後夜祭のために七輪を買いました。2,000～3,000円程度で買えとてもお手軽だったのですが、七輪そのものがとても重く、四苦八苦しながら大学まで運びました。しかし、七輪で炭を燃やす様子はとても風情があり、その上で焼くお肉もまた格別でした。購入して良かったな—と思っています。いずれ、1人でお酒を片手に七輪で肉や魚を焼いてみたいと思っていますが、家がアパートなのでそれをする場所がなかなか見つからないのが悩みです。

(柴野)

* * *

先日、『ケアニン～あなたでよかった～』という映画を観ました。新人の介護福祉士の奮闘を通して、認知症であってもその人がその人らしく生きられることを目指す小規模多機能施設を描いた、とても温かな映画です。観た後は、子どもとして親孝行を、医療者として患者さん孝行をできるようになりたいと感じ入りました。その映画の中で「生きること(医療によって)生かすこと」という、医師がつぶやいた言葉があります。今実際に病院で実習する中、どこか心に留め置きたい、重い言葉になりました。

(泉)

* * *

来年度の診療報酬改定で、厚労省と財務省はマイナス改定を主張しています。厚労省の資料の中で診療報酬本体は「医師の人件費等に当たる」と記載されていて、新聞やテレビも同じ表現を用いています。これでは国民は誤解し、本体部分は抑制すべしという世論が形成されます。本体部分には医師、看護師など医療従事者の人件費だけではなく、医療機器・器材費、施設の設備費・ランニングコストも含まれます。これらは年々上昇しており、本体部分のマイナス改定は医療崩壊につながります。

(佐々木)

* * *

今月のトピックス

会長のページ 医療類似行為と療養費

柔道整復やあはき(あん摩・マッサージ・指圧、鍼・灸)の問題は過去に日州医事でも取り上げてきました(「あはき」(あん摩・マッサージ・指圧、鍼・灸)と柔道整復における「療養費」の問題点:2012年8月号、あはき療養費も受領委任(代理請求)可能に?同意書作成の知識と理解の重要性:2017年8月号。これらを含む日州医事のバックナンバーは宮崎県医師会のホームページから閲覧できます)。今年最後の会長のページは整形外科医でもある河野会長による柔道整復やあはき、その療養費に関する諸問題の再認識と提言です。 3ページ

報告 全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会 第67回定例総会・平成29年度第1回運営委員会

お知らせ 平成29年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生就職のお願い

医師の過重労働を軽減するため医療秘書の活躍が期待されています。特に電子カルテを導入すると、診療を効率的に進めるためには医療秘書の存在は欠かせません。現在、日本医師会認定医療秘書養成機関は14県12校(宮崎県には3校あります)あるそうですが、医療機関側の体制が整わないことや診療報酬上の手当てが不十分等の理由で医師事務作業補助者としての採用はまだ少ないようです。優秀な学生を集めるためにも、卒業生が就職に困ることがないように体制作りが必要です。 19～21, 78ページ

診療メモ 免疫抑制・化学療法を行うすべての患者はHBV感染のスクリーニングが必要である～B型肝炎ウイルス再活性化を未然に防ぐ～

免疫抑制療法やがん化学療法を受けることで、HBVが再活性化してB型肝炎を発症、しばしば劇症肝炎を引き起こすことが問題になっています(de novo B型肝炎)。わが国の50歳以上の年齢層におけるHBV既往感染例の頻度は20～25% (およそ4人に1人!)と推測されており、免疫抑制や化学療法の前に全患者のHBV感染をスクリーニングすることは必須です。宮崎医療センター病院 宇都浩文先生にde novo B型肝炎に関し詳しく分かりやすく解説していただきました。 64ページ

日 州 医 事 第820号(平成29年12月号)(毎月1回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会長 河野 雅行
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550
<http://www.miyazaki.med.or.jp/> E-mail:office@miyazaki.med.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 沖田 和久・副委員長 西田 隆昭, 岡本健太郎
委 員 中村 豪, 野村 勝政, 馬場 萌子, 二見 旬祐
山崎 俊輔, 稲倉 琢也, 上山 貴子, 柴野 雅資, 泉 摩依
担当副会長 富田 雄二・担 当 理 事 荒木 早苗, 佐々木 究
事 務 局 学術広報課 立山 幸恵, 牧野 諭

印刷所 愛文社印刷株式会社・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円(但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)